

租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後評定指數千個當配賦地價額は百三圓九十九錢八二六二四なり。  
 地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	九、四九二・三元 <sup>坪</sup>	整理後面積	八五、七九九・九三 <sup>坪</sup>	差引減歩面積	二、六九二・四六 <sup>坪</sup>
-------	-----------------------	-------	------------------------	--------	-----------------------

二 整理前有租地坪當平均地價

整理前有租地面積	九、四九二・三元 <sup>坪</sup>	同上總地價	三、九五、三三・三 <sup>円</sup>	坪當平均地價	四〇・一五 <sup>円</sup>
----------	-----------------------	-------	------------------------	--------	--------------------

三 控除せらるべき地價

有租地差引減歩面積	二、六九二・四六 <sup>坪</sup>	坪當平均地價	四〇・一五 <sup>円</sup>	控除地價	五〇九、七三・八〇 <sup>円</sup>
-----------	-----------------------	--------	--------------------	------	------------------------

四 整理後評定指數千個當配賦地價額

整理後有租地總指數	三、三、三、五七 <sup>円</sup>	配賦地價額	三、四五、六八・五三 <sup>円</sup>	指數千個當配賦地價額	一〇三、九九六・二四 <sup>円</sup>
-----------	-----------------------	-------	-------------------------	------------	-------------------------







合 計	公 共 用 地					國 有 免 租 地		府 有 免 租 地
	物 共 公 溝 運 河 道 揚 同 園 渠 河 川 路 場					計 社 官 地 有 地	道 路	
外 一 空、四三・七 書 二四〇・四	四、六二・七		一、四五〇・九	二、五四一・六	三、一九六・〇	七、一九五・三	七、〇二六・二	五二・四
八七						四 三 五		
一 空、八四・空	七、四三・四	二〇〇・三	六二・二五	二、七六・七	五七、七四・四〇	九六・八三	九一・六	八七・〇七
六九 二七、七九・六						〇 三 七		
二六、〇七・五	二七、〇四・八	二〇〇・三	六二・二五	二、四五・〇五	二六、五八・元			
四三	一、〇四五・〇九				一、〇四五・〇九	六、三三・元	〇・八五	六、三三・五四
二七								五二・四

市 有 免 租 地	河 岸 地	共 同 揚 場	物 揚 場	計
七、〇六八・七				一三、〇四三・〇六
一六				一六
六、三四・五				六、四九・一九
二四・六一				二
六、七九・二四				二四・六一
二四・六一				二
七、四三・七九				二四・六一
四〇				四











第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

要移轉建物の用途を大別すれば、商店千四十棟の三割五分を最高とし、住宅八百七十七棟の二割九分  
之に次ぎ、以下倉庫、飲食店、事務所等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	要		移	轉		物
	棟數	延坪數		延坪數	一棟平均坪數	
官署	七	九七・三	〇・二四	二二・〇〇	二九・七	
學校	二	五・七	〇・〇七	二二・〇〇	二九・七	
神社	三	五・〇二	〇・一〇	二二・〇〇	二九・七	
教會	二	五・五〇	〇・〇七	二二・〇〇	二九・七	
祠宇	三	六・九	〇・一〇	二二・〇〇	二九・七	
病院	一	一三・三	〇・〇三	二二・〇〇	二九・七	
醫院	一	一四七・九	一・二六	二二・〇〇	二九・七	
銀行	二	一、八六・二	〇・八	二二・〇〇	二九・七	
事務所	七	四、九五・三	二・五	二二・〇〇	二九・七	
仲買店	一	二八・〇〇	〇・〇三	二二・〇〇	二九・七	
住宅	八七	一四、四九・五	二九・五二	二二・〇〇	二九・七	
旅館	三	一、三五・四	〇・四	二二・〇〇	二九・七	
寄宿舍	三	一七〇・七	〇・一〇	二二・〇〇	二九・七	
商店	一、〇四〇	三〇、三六・一	五・〇〇	二二・〇〇	二九・七	

飲料	一〇八	〇・五〇	六〇三・八八	四〇・二六
料理	一〇八	〇・五〇	六〇三・八八	四〇・二六
店	一〇八	〇・五〇	六〇三・八八	四〇・二六
店	一〇八	〇・五〇	六〇三・八八	四〇・二六



商	寄	旅
店	舍	館
1,040	三	1,133
5,000	0.10	0.44
30,336.13	170.87	1,345.41
29.17	56.96	13.49

料	飲	觀	席	娛	質	浴	理	周	運	工	小	倉	自	其
店	店	場	亭	場	屋	場	店	業	業	場	場	庫	庫	計
理	食	物	樂	樂	場	場	容	旋	送	工	工	車	車	他
一五	一〇八	一	二	二	二	八	二六	二	二	三	三	五	六	四
〇・五〇	三・六四	〇・〇三	〇・〇七	〇・〇四	〇・〇七	〇・二七	〇・九四	〇・〇七	〇・〇七	一・一一	一・一五	一・七五	二・二九	一・三・三三
六〇三・八八	二、八四・八九	九〇・〇〇	九九・七六	三七四・三〇	一九・七七	三九七・九四	四〇一・三五	四一・四九	七七五・二五	一、五七・六二	一、〇〇七・八五	二、一七三・九六	三八四・五四	一、二八・五三
四〇・二六	二六・一六	九〇・〇〇	四九・八八	二六・七九	一四・八九	四九・七四	一四・三三	二〇・七四	三三・四三	二九・一九	一四・八二	一七・二三	一四・二四	一〇・六五
二五・〇七														

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て、假設建築物として新築、  
 第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉  
 八五九



第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

八六〇

改築、増築等の爲、東京府知事に許可申請を爲したるもの建物千十三棟、工作物一件、内許可せられたるもの建物八百五十二棟、工作物一件、許可せられざりしもの建物百六十一棟なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し、事業施行の必要上移轉を要したるもの八十九棟なり。

以上の建物其の他の工作物を新築、改築、増築等に区分し、尙不許可處分を爲したるものに對しては、其の原因を類別し各之を表示すべし

假設建築物築造申請に對する種別調

區分	申請		許可		不許可	
	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數
新築	五十六	一	四十九	一	七	一
改築	四	一	三	一	〇	一
増築	三六	一	三五	一	一	一
移築	九	一	九	一	一	一
大計	一〇一	一	八三	一	一六	一

不許可處分の原因調

區分	建物棟數	工作物件數
新築	五十六	一
改築	四	一
増築	三六	一
移築	九	一
大計	一〇一	一











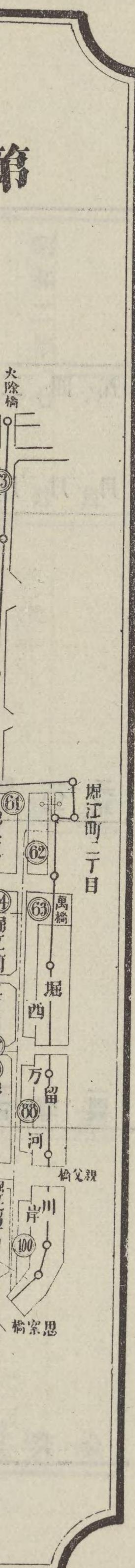




第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

前記計畫に依るときは要移轉建物二千九百七十一棟此の延坪數七萬四千四百八十五坪四合五勺は、整理後に於て其の棟數に増減なきも、坪數に於ては一割九分七厘の縮少を來し、五萬九千七百七十坪一合六勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	二、八四七	六九、三〇一 <sup>坪</sup>	二、八四七	五五、二六 <sup>坪</sup>	—	一四、三三五 <sup>坪</sup>
石造平家	一五	七九・二元	一五	七・六	—	七・六
同煉瓦造平家	一	一三・〇〇	一	二〇・七〇	—	二・三〇
同煉瓦造平家	四	九六・六一	四	八七・八六	—	二七・七五
同煉瓦造平家	二五	一、二三・三	二五	九八〇・一	—	一四三・二
同煉瓦造平家	三	六・〇六	三	五九・六七	—	六・元
同煉瓦造平家	一九	六六・五	一九	五三・三	—	六・六
同煉瓦造平家	六	一六・二五	六	二七・四一	—	六・八
同煉瓦造平家	六	一六・九	六	一〇・七四	—	一五・一五
同煉瓦造平家	三	一五・二六	三	一四・一五	—	八・二
同煉瓦造平家	六	一五・三六	六	一七・三七	—	七・〇九
同煉瓦造平家	三	五〇・一八	三	四一・八	—	—
同煉瓦造平家	三	一、三三・六八	三	一、三三・六八	—	—
同煉瓦造平家	一	二八・四〇	一	二八・四〇	—	—
同煉瓦造平家	一	一五・〇〇	一	一五・〇〇	—	—
同煉瓦造平家	三	一四、四八・四五	三	五九、七〇・二六	—	一四、七五・二九
計	二、九七	—	二、九七	—	—	—









第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十五年十一月三十日第一次移轉命令として、小網町一丁目の一部及末廣河岸を一團とする第九十八移轉群の建物十一棟に對し、移轉命令七通、同通知二通を發し、爾來引續き發令に努め、昭和三年三月十三日室町一丁目第九十六移轉群の發令を最後とし、要移轉建物二千九百七十一棟の内、協議並直轄移轉に依る三十三棟を除きたる二千九百三十八棟及工作物に對し、移轉命令二千五百五十七通、同通知二千四十八通を發し、茲に全部の發令を終へたり、之を月別に示せば左の如し。

年	月	命令棟數	命令通知數	命令通知通知數
大正十五年 昭和十五年	十一月	二	七	二
	十二月	三	九	五
	計	三	一五	七
	一月	一	一	一
	二月	一	一	一
	三月	四	三	三
	四月	一〇	七	六
	五月	二〇	一四	六
	計	二〇	二四	二八



五	四	三	
月	月	月	
二〇	一〇	四	
一	七	四	
六	六	九	

合 計	昭和三年			昭和二年						
	三	二	一	十	十	十	九	八	七	六
	計			計						
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
二、九六	五	二	三	一	二、〇一	一	四	七	五	二
二、二七	二	一	一	一	二、〇〇	一	〇	五	四	三
二、〇八	一	一	一	一	一、九〇	一	四	六	六	三

備考 本表中には移轉命令發令後取消を爲したるものを含まず。

第二節 協議竝直轄移轉

第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物三十二棟、工作物二十七件あり、内建物四棟は官公署の所有に係り、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物二十八棟、工作物二十七件は民有

第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉



にして、内建物九棟は東京市常盤尋常小學校々舎新築關係に依り急速移轉を要したるもの、其の他の建物十九棟及工作物二十七件は移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

## 第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの建物一棟、工作物一件あり、内建物は本市保健局の所管に係り同局の希望に依りたるもの、工作物は民有にして、占有建物附屬工作物中其の占有者の所有なりしが、當時建物と共に執達吏の保管に屬するを以て、所有者自ら移轉し得ざる事情ありしに依るものなり。

## 第四章 損害補償

### 第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、乃ち昭和二年一月建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、同年三年以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は同三年四月迄に終了し又補償審査會に於ける補償金の決定も、回を重ねること五十四回(變更案の決定を含む)にして、同年七月一先終了したるが、其の後に至り尙既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十二回に及び、同四年五月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は、左表の如く三百九十萬五千七百九十三

圓十七錢にして、内國負擔額百七十萬八千三百六十四圓三十六錢、市負擔額二百十九萬七千四百二十八圓八十一錢なり。



したるが、其の後に至り尙既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十二回に及び、同四年五月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は、左表の如く三百九十萬五千七百九十三圓十七錢にして、内國負擔額百七十萬八千三百六十四圓三十六錢、市負擔額二百十九萬七千四百二十八圓八十一錢なり。

棟數	延坪數	補償金	内		譯
			區分	金額	
二、九七二	七四、四八五・四五 <sup>坪</sup>	三、九〇五、七九三・七 <sup>円</sup>	建物移轉料	一、三〇四、三二一・九 <sup>円</sup>	三〇・九四
			工作物移轉料	四七二、八八二・四二	六・五
			造作移轉料	四、七五三・八二	〇・五
			動産移轉料	二七八、七三三・〇五	三・七四
			休業補償	五六、八四一・六五	六・九四
			雜費	二九一、二四一・四五	三・九一
			計	三、九〇五、七九三・七	五三・四四

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	延坪棟數	新築費	坪當單價
木造建物	二、八四七	九、三二一・六七 <sup>坪</sup>	二四・三六 <sup>坪</sup>	五、一七五、二二一・一八 <sup>坪</sup>	七四・六三 <sup>円</sup>
石造平家建	五	九・元	一五・八六	一三、四三三・五七	一六九・四〇
同階建	一	二三・〇〇	二三・〇〇	三、五五五・〇〇	一五五・〇〇

第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

煉瓦造平家建	四五	九六・六一	二・四八	二六、三九・二八	三四・一〇
同 二階建	一五	一、二三・三	四・九二	三二、五四・七	一九・二五
同 三階建	三	六・〇六	三・〇二	三三、五四・七五	三四・二六
鐵骨造平家建	一九	六・一五	三・八二	五〇、九六・三	七・〇二
同 二階建	六	一六・二五	二七・七一	一七、八九・八五	一〇七・六六
鐵骨木造二階建	三	一六・九	三・〇〇	九、三三・五一	九・六
鐵筋コンクリート造平家建	六	一五・二六	二五・八八	五七、六七・四二	三二・四二
同 二階建	三	三・五・三	一五・三二	三〇、三〇・三五	一〇七・七
同 三階建	三	五〇・八	一八・〇六	一一、四三・九	二〇五・六
同 七階建	一	一、四三・六	一、三三・六	七九、〇四・〇〇	五五・〇〇
土藏造二階建	三	二六・四〇	九・四七	一一、七五・二	四三・八
同 三階建	一	一五・〇〇	一五・〇〇	五、二五・〇〇	三四九・〇〇
工作物	一	一	一	一、三九、三九・九五	一八・五二
計	二、九七一	七四、四八五・四	二五・〇七	七、九三、二八七・一〇	一〇七・三三

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

前掲補償金及移轉料の總額を更に種別毎に分類して示せば左の如し。



前掲補償金及移轉料の總額を更に種別毎に分類して示せば左の如し。

一 補償審査會に於て決定せる補償金

棟 數	建 物	延 坪 數	補 償 金	内	
				區 分	金 額
二、八九		六九、八九・五三 <sup>坪</sup>	三、七七、三九・二〇 <sup>円</sup>	建物移轉料	二、三四、一八・五八 <sup>円</sup>
				工作物移轉料	四五、〇九・九五
				造作移轉料	四一、七一・七六
				動産移轉料	二七、六三・二四
				休業補償	五二、六八・九九
				雜費	二六、〇〇・七六
				計	三、七七、三九・二〇
					三・六六 <sup>円</sup>
					六・五四
					〇・六〇
					三・九六
					七・三三
					四・〇九
					五四・一九

備考 補償金決定後火災に因り焼失したる建物五棟、此の既決補償金五千六百六十六圓九錢を三千八百八十五圓六十一錢に変更したり。



第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

二 協議移轉に依る移轉料

棟 數	建 物	延 坪 數	移 轉 料	區 分 金 額 坪 當						
				建 物 移 轉 料	工 作 物 移 轉 料	造 作 移 轉 料	動 産 移 轉 料	休 業 補 償	雜 費	計
三		八五・〇八	四〇,五三・七六	二四,九三・八二	九,一七・五九	五・〇四	一,四六・二二	三,六九・六五	一,一八・四七	四〇,五三・七六
				二九・一〇	一〇・七〇	〇・〇六	一・七〇	四・二六	一・三六	四七・三三

備考 東京市常盤尋常小學校々舎新築工事の爲、協議移轉に依りたる建物九棟に對する移轉料總額は二萬千三百五十八圓三十一錢にして、内日本橋區に於て負擔したる九千五百六十八圓六十三錢は本表に含まず。

三 直轄移轉工事費並其の補償金

區  
分  
棟數又は件數  
延  
坪  
數  
補  
償  
金  
工  
事  
費



萬千三百五十八圓三十一錢にして、内日本橋區に於て負擔したる九千五百六十八圓六十三錢は本表に含まず。

三 直轄移轉工事費並其の補償金

區分	棟數又は件數		延坪數	補償金	工事費
	建物	工作物			
	一棟	一件	二・二八坪	九・〇七円	四・〇〇円
	一一棟	一一件	二・二八坪	九・〇七円	二六・〇〇円
				七・〇七	七・〇〇

四 不許可建物の移轉料

建物棟數	延坪數	移轉料	區分		額坪	當
			内	外		
八九	三、七四・六六坪	七五、二六・七六円	建物移轉料	六五、〇三・五円	一七・四二	
			工作物移轉料	六、五三・八七	一・七六	
			雜費	三、六六・四〇	〇・九六	
			計	七五、二六・七六	二〇・一五	

第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉



五 豫告を受けざる占有者の移轉料

件 數	移 轉 料	區 内		分 金	譯 額
		工 作 物 移 轉 料	造 作 移 轉 料		
三	二、四八七・四	六七・七〇	一、五三・〇一		
		三三六・六			
		計	費		
		雜	休		
		業	業		
		補	補		
		償	償		
		費	費		
		計	計		
					二、四八七・四

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は昭和二年三月より開始し、爾來決定の都度之が通知をなし、同三年七月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は同四年五月に及びたり。

然るに前記通知書中住所不明の爲返送せられたるもの多數あり、右は何れも住所異動に因るものなるを以て、是等に對しては極力其の移轉先を調査の上、判明したるものには夫々通知を爲し、全く所在不明のものに付ては、昭和三年十月二十五日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、昭和二年四月より之が

交付を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三百九十萬五千五百二圓十錢にして、内國負擔額百七十萬八千三百六十四圓三十六錢、市負擔額二百十九萬七千三百三十七圓七十四錢なり。

而して昭和四年六月即ち移轉工事完了迄に要移轉建物の内抵當權、質權の設定ありたるもの左表の通



を以て、是等に對しては極力其の移轉先を調査の上、判明したるものには夫々通知を爲し、全く所在不明のものに付ては、昭和三年十月二十五日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。  
 補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、昭和二年四月より之が

交付を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三百九十萬五千五百二圓十錢にして、内國負擔額百七十萬八千三百六十四圓三十六錢、市負擔額二百十九萬七千三百三十七圓七十四錢なり。  
 而して昭和四年六月即ち移轉工事完了迄に要移轉建物の内抵當權、質權の設定ありたるもの左表の通りなりしも、何れも關係人の同意を得て支拂を了したり。

權利の種類別	件	數	建築物棟數
質 抵		七三	九七三
當 權		四	七五
計		八〇	一、〇四八

## 第五章 移轉實施

### 第一章 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、昭和二年四月より同三年十二月迄に完了する豫定なりしが、之が實施に至りては豫定の工程を見る能はず、即ち最終工期たる昭和三年十二月迄に工事完了の豫定なりし二千九百七十一棟の内、二千六百八十四棟は豫定期間中に、殘餘の二百八十七棟は同四年六月迄に、尙建物以外の工作物も同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅ること六月にして全部の完了を見たり、之を年別に示せば左の如し。

第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉











昭和四年											
七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月
一	一	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一
二、九七	二、九七	二、九六	二、九六	二、九六	二、九七	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一
二、九七	二、九七	二、九六	二、九六	二、九六	二、九七	一	一	一	一	一	一
二〇	二〇	二〇	二〇	三	六	一	一	一	一	一	一
二、七五〇	二、八六〇	二、九一六	二、九四	二、九五	二、九七	一	一	一	一	一	一
四〇六	一五	二〇三	一九	二四	一四三	七〇	一〇三	六	二七	一四	〇
一、九〇八	二、〇六六	二、二六九	二、四二八	二、五四三	二、六四	二、七五	二、八五	二、九〇	二、九四	二、九六	二、九七

第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を経過し、現場係員より工事實施方に付、屢次誘導督勵を爲すも容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したるもの建物三百八十六棟、工作物三件ありたり。

戒告後尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したるもの建物十七棟あり、其の主なる原因は、占有者との間に紛擾を醸し義務者自ら移轉し得ざるもの十八十二棟、借地權に關する紛争によるもの三人三棟、全く自己の怠慢によるもの二人二棟なり。

行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

區	分	件	數	建物棟數	工作物件數



戒告後尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したるもの建物十七棟あり、其の主なる原因は、占有者との間に紛擾を醸し義務者自ら移轉し得ざるもの十八十二棟、借地權に關する紛争によるもの三人三棟、全く自己の怠慢によるもの二人二棟なり。

行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

區	分	件	數	建物棟數	工作物件數
戒告書を發したるもの			二六六	三六六	三
戒告後自ら移轉したるもの			二八二	三九九	三
代執行を爲したるもの			一五	一七	一

### 第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始に伴ひ臨時收容家屋設置の必要に迫られたるを以て、昭和二年十一月本銀町一丁目十三番に移動式住宅二十六棟、同物置五棟、本小田原町二十二番に住宅十四棟、物置二棟を設置し、同月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ、使用希望者増加したるを以て順次増設を爲し、工事終了の直前迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置撤去		期間		住		宅		物		容	
	住宅	物置	年	月	住宅	物置	世帶數	一棟當世帶數	人員	一棟當人員	世帶數	一棟當世帶數	人員	一棟當人員
日本橋區本銀町一丁目十三番	二六	五	昭和二	二	昭和二	二	二九	四・六	五二	一九・七〇	一七	三・四〇		
同 本小田原町二十二番	一四	二	同	二	同	三	〇	七・七	四五〇	三・二四	一一	五・五〇		

第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉



日本橋區本銀町三丁目三番	三	二	昭和三、三	昭和三、九	自昭和三、八	昭和三、八	上	四五	三四六	一七九	一三・七七	七	三・五〇
同 本石町一丁目二十六番	三	八	同 三、三	四、六	至同 四、三	同 五、三	上	一八七	五・六七	七九五	一四・〇九	二元	三・六三
同 本石町三丁目十二番	七	一	同 三、三	三、九	至同 三、三	同 三、八	上	三三	四・五七	一三五	一九・二九	三	三・〇〇
同 本石町四丁目二十八番	三	一	同 三、三	四、三	至同 四、三	同 四、三	上	三三	二・〇〇	一六	四・〇〇	一	一
同 西萬河岸三十六號	一〇	一	同 三、三	四、二	至同 四、三	同 四、一	上	五	五・三〇	三・八	三・八〇	四	四・〇〇
同 長濱町三番	一七	二	同 三、七	四、三	至同 四、三	同 三、七	上	八九	五・四	三八二	三・四七	六	三・〇〇
同 本石町一丁目二十二番	八	二	同 三、七	四、六	至同 四、三	同 四、七	上	六〇	七・五〇	二六五	三・二三	一三	六・五〇
同 本石町四丁目二十八番	七	一	同 三、九	四、三	至同 四、三	同 三、九	上	二〇	二・八六	八九	二・七	四	四・〇〇
同 常盤町九番	一	一	同 三、二	四、六	至同 四、三	同 三、二	上	三	三・〇〇	一四	一四・〇〇	一	一
同 伊勢町四番	三	一	同 三、三	四、三	至同 四、三	同 三、二	上	二四	五・六四	五五	二五・六	七	四・八一
計	二六	四〇						八七	五・四一	三、七三	三三・〇〇	一七	四・二八

第四節 宅地造成

本地區は地勢平坦なるに拘らず、宅地造成工事件數八十一件施行箇所百三十二箇所の多きに及べり、

是れ西堀留川埋立に關聯し小舟町、堀江町等に二十六件の盛土並假下水道工事の施行を要したると伊勢町附近の幹線街路標高の變更に因り工事施行の已むなきに至りたる箇所ありたると、魚河岸の護岸繼足工事多かりしとに因るものなり、而して是等工事中土留工最も多く二十三件二十六箇所内大谷石積工十



第四節 宅地造成

本地區は地勢平坦なるに拘らず、宅地造成工事件數八十一件施行箇所百三十二箇所の多きに及べり、

是れ西堀留川埋立に關聯し小舟町、堀江町等に二十六件の盛土並假下水道工事の施行を要したると伊勢町附近の幹線街路標高の變更に因り工事施行の已むなきに至りたる箇所ありたると、魚河岸の護岸繼足工事多かりしとに因るものなり、而して是等工事中土留工最も多く二十三件二十六箇所内大谷石積工十六件十九箇所此の面坪六百四十坪一、板柵工二件二箇所此の面坪十坪、間知石積工一件一箇所此の面坪一坪四二、コンクリート工四件四箇所此の面坪八坪三三其の他盛土工二十二件四十七箇所、切土工二十一件三十六箇所、假下水十五件二十三箇所なり、右の外本銀町三丁目十四番地先今川橋際護岸修築工事と同時に、該護岸に手摺の取付を爲したるもの一件あり。

工事著手は大正十五年十二月日本橋區常盤町五番の土留石垣工事を最初とし、それより建物移轉の進捗に伴ひ順次各種工事を施行せり、而して之が施行に當り金物竝機械商の商品又は材料を工事施行箇所に置きたるものありて工事上支障を來し、之が除去に關し尠からず苦心を要したるも、工事は逐次進捗し、昭和四年十一月日本橋區西萬河岸四十五號の盛土工を最後とし、八十一件百三十二箇所の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積一萬八千坪五合九勺なり、今其の工事狀況を見るに左の如し。

工 事 種 別	工 事 工 事 件 數 箇 所	數 量	金 額	内		請		譯	
				直	營	件數 個所	數量	金 額	件數 個所
假 下 水 工	一五	二三	二四、五・七七	一	一	一五	二三	二四、五・七七	一、二七六・二〇
土 留 工	二三	二六	六、六九・八六	一	一	二三	二六	六、六九・八六	六、六九・八三

第十一地區 乙 建物其の他の工作物移轉



第十一地區 乙 建物其他の工作物移轉

計	切土工	盛土工	立坪 六〇三・七一	立坪 三、三三〇・〇〇	立坪 五七・六二	立坪 五四六・〇九	立坪 二、九七四・三〇
八 一三	三 六	三 四	五八・九二	四、〇三三・〇〇	四〇・九六	五四〇・九六	三、八三四・八〇
				一五、二七六・三三			
				一七	五	三	
				二四	八	一六	
						四〇・九六	
						五七・六二	
						三九五・七〇	
						一九七・五〇	
						五四三・二〇	
						一〇	
						一六	
						二六	
						五四〇・九六	
						二〇	
						一四、七五五・二二	

八八二

丙 地下埋設物其他工作物整理



## 丙 地下埋設物其他工作物整理

### 第一章 概 説

本地區に於ける工事數量は本枝管線處理電柱五百二十六本、管線路一萬三千三百四十間七、其の他六十一箇所、二地區集計電柱六百一十一本、管線路一萬千八百八十九間三、應急整理一工事電柱四本、管線路二十八間四、其の他五十九箇所、假本整理電柱三百六十一本、管線路二千二百二十三間、其の他二箇所及私有管線處理七千二百七十二件にして、内道路占用の許可又は承認を爲したる要求工事千二百三十七件、内道路後修を要したるもの七百六十一件なり、之を事業別に見るに水道工作物管線路三千三百七十八間六、其の他二千三百七十七件及十箇所、整理費九萬四千十圓五十九錢、下水工作物管線路二十一間、其の他一箇所、整理費二千五百五十八圓六錢、市電工作物電柱百五十四本、管線路九百三十七間三、其の他百六十一件及二箇所、整理費六千六百八十七圓三十六錢、東電工作物電柱三百七十二本、管線路二百五十一間二、其の他二千八百四十件及三箇所、整理費六萬五千三百六十八圓四十二錢、瓦斯工作物管線路八千七百五十二間六、其の他千八百六十七件及四十五箇所、整理費九萬四千六百八十七圓七錢、電話二十七件、整理費五百七十圓八錢なり、而して本地區に於ける整理費は二十六萬三千八百八十一圓五十八錢にして、内私有管線路の十六萬二千二百六十六圓六十五錢を最高とし、一地區集計の六萬三千三十二圓二十九錢之に次ぎ、其の他は假本整理、道路後修、應急整理一工事の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。







合計	三、四〇〇・〇〇	三、二五八・〇六	三、五七三・六六	三、八四一・四三	三、五七三・六六	三、四〇〇・〇〇	三、二五八・〇六	三、四〇〇・〇〇
電柱	二、一〇〇	二、〇〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇
管線路	一、三〇〇	一、二五八	一、四七三	一、七四一	一、四七三	一、四七三	一、三〇〇	一、三〇〇
其他	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。

二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
一地區集計	二六本	三、〇〇六・四八	二六本	三、〇〇六・四八	八〇本	五、〇〇一・八四	五五本	二、四九二・七四	一六三本	五、九九〇・二二	一六二本	九、六〇一・〇八
電柱	二六本	三、〇〇六・四八	二六本	三、〇〇六・四八	八〇本	五、〇〇一・八四	五五本	二、四九二・七四	一六三本	五、九九〇・二二	一六二本	九、六〇一・〇八
管線路	三六〇・五	一、五八八・〇一	三六〇・五	一、五八八・〇一	三、五七三・六六	一、四七三・〇九	三、五七三・六六	一、四七三・〇九	三、五七三・六六	一、四七三・〇九	三、五七三・六六	一、四七三・〇九
應急整理	二二〇	一、八二九・五六	二二〇	一、八二九・五六	四〇	一〇・五五	三	五〇・〇五	三	五〇・〇五	二八	一、九五九・二七
管線路	二二〇	一、八二九・五六	二二〇	一、八二九・五六	四〇	一〇・五五	三	五〇・〇五	三	五〇・〇五	二八	一、九五九・二七
其他	一	七六・五〇	九	一三三・〇五	四三	三三・二二	三	五〇・〇五	三	五〇・〇五	五九	一、九七一・二四
假本整理	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七
電柱	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七
管線路	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七
其他	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七
私有管線	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七
道路後修	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七
合計	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七
進捗歩合%	計	二、五八六・〇六	計	二、五八六・〇六	計	五、五五六	計	五、〇〇五	計	三、三九〇・三三	計	四、二四七・七

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理







計	計		計
	國負擔	市負擔	
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八
二、四一・三	二六、三五八・八	一、〇七二・五	一、三三九・八

年度別工事費支拂進捗状況

種別	計		支拂未済	計
	國負擔	市負擔		
道路後修	三、四六・四	—	—	三、四六・四
合 計	三、四六・四	—	—	三、四六・四
昭和二年	三、四六・四	—	—	三、四六・四
昭和三年	—	—	—	—
昭和四年	—	—	—	—
昭和五年	—	—	—	—
支拂未済	—	—	—	—
計	三、四六・四	—	—	三、四六・四

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

種別	計		支拂未済	計
	國負擔	市負擔		
一地區集計	—	—	—	—
應急整理一工事	二、六九・四	—	—	二、六九・四
假本整理	—	—	—	—
私有管線	—	—	—	—
道路後修	—	—	—	—
進捗歩合%	二、六九・四	—	—	二、六九・四
計	二、六九・四	—	—	二、六九・四







工事施行中設計變更を爲したる件數三十七件ありたる結果、整理數量に於ては増加したるも工作物の種類其の他の關係上工事費に於て三千七百五十二圓八十三錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を見るに左の如し。

種別	電		柱		管		線		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約	一五〇 <sub>本</sub>	一〇、六五二・八〇	一〇、六五二・八〇	五、一三三・三三	一〇、六五二・八〇	五、一三三・三三	一〇、六五二・八〇	五、一三三・三三	六、七五・二二
設計變更後(精算)	一六一	九、六〇一・〇六	九、六〇一・〇六	一一、一八九・三三	五、四三三・三三	一一、一八九・三三	五、四三三・三三	五、四三三・三三	六三、〇三三・二九
差引増△減	二	△	△	△	五三六・五	△	△	二、七〇一・〇九	△
									三、七五・八三

尙工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電		柱		管		線		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭和二年	二六 <sub>本</sub>	二、〇六・四八	三、八〇・五	一、五八八・〇二	二六	三、六四・四九	二六	三、六四・四九	三、六四・四九	六
昭和三年	八〇	五、〇八一・八四	三、五四七・六	一、四七四・九一	八〇	二、九八三・七五	八〇	二、九八三・七五	二、九八三・七五	三
昭和四年	五	二、四九二・七四	五、六七・二	三、一一二・〇〇	五	三、六四・九四	五	三、六四・九四	三、六四・九四	五
昭和五年	一	一	一、六三四・〇	五、九九〇・二一	一	五、九九〇・二一	一	五、九九〇・二一	五、九九〇・二一	一〇
計	一六一	九、六〇一・〇六	一一、一八九・三三	五、四三三・三三	一六一	六三、〇三三・二九	一六一	六三、〇三三・二九	六三、〇三三・二九	一〇〇



支拂狀況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
昭 和 三 年	一〇、九七・三 <sup>円</sup>	一〇、一四〇・三六 <sup>円</sup>	二一、一一七・六六 <sup>円</sup>	三三
昭 和 四 年	九、〇七・二	七、七七・三	一六、八四・五	二七
昭 和 五 年	一三、九〇・四	一一、〇七・一六	二五、〇七・五六	元
計	三四、〇七・四	二八、九四・八三	六三、〇二・二三	一〇〇

第一 水道

一 契 約 昭和二年四月十一日管線路二千四百二間三及關係工作物に對し整理費二萬千三百七十圓八十四錢を以て整理に關する假契約を爲し更に同三年五月十七日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國一萬千五百四十圓二十五錢、市九千八百三十圓五十九錢なり。

二 工 事 昭和二年四月十一日假契約成立せるを以て同三年七月十一日最初の工事要求を爲し、同年十月二日工事に著手しそれより逐次各種工事を施行せり、然るに施行中五件の設計變更を爲したる結果、新設千八百七十二間四、撤去二百四十間、埋殺三百五十三間計二千四百六十五間四となり管線路に於て六十三間一の増加を爲したり、而して昭和四年十一月三十日を以て總工事を完了し同五年六月十一日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	管 線 路		步 合 %
	數	量 金 額	



日竣功検査を了したり、其の進捗状況を示せば左の如し。

年 度	管 線 路		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 三 年	三九・二 <sup>冊</sup>	二、九七・三 <sup>円</sup>	一四
昭 和 四 年	二、二六・二	一八、四二・四〇	六
計	二、四六・四	二、四〇三・七	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額二萬千三百七十圓八十四錢内國負擔一萬千五百四十圓二十五錢、市負擔九千八百三十圓五十九錢にして、第一回前渡金は昭和四年二月八日、第二回前渡金は同年十月四日支拂手續を爲し昭和五年六月十一日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額二萬千四百九圓七十七錢となり契約金額に比し三十八圓九十三錢の増額を見たり、之を工種別に見るに新設千六百三十九間金額一萬四千八百三十五圓五十六錢、移設二百三十三間四金額四千六百十七圓六十二錢、その他金額千九百五十六圓五十九錢にして國市負擔區分は國一萬千五百六十一圓二十八錢、市九千八百四十八圓四十九錢なり、其の精算状況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負 擔 區 分	潰 地 面 積	比 率 %	契 約 金 額	精 算 金 額	差 引 増 △ 減
幹線街路費	一〇、七四〇・六 <sup>坪</sup>	五	一〇、八九・三 <sup>円</sup>	一〇、九八・九 <sup>円</sup>	一九・六 <sup>円</sup>
國負擔	五九・四	三	六四・二	六四三・元	一・二七
運河費	一一、三〇・七	四	一一、四四・三 <sup>五</sup>	一一、五六一・元	一一〇・三

第十一地區

丙 地下埋設物其他工作物整理







一 契約 昭和二年十一月十日電柱二十八本、地中線千九百九十九間及關係工作物に對し整理費四千七百六十四圓二十二錢を以て整理に關する假契約を爲し更に同三年五月十日之が本契約を締結したり、

右整理費の國市負擔區分は國二千五百七十二圓六十八錢、市二千九百九十一圓五十四錢なり。

二 工事 昭和二年十一月十日假契約成立せるを以て翌日最初の工事要求を爲し、昭和三年四月十二日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中二十件の設計變更を爲したる結果電柱新設二十九本、撤去二十本計四十九本、地中線新設二百四十三間三、撤去五百五十間七計七百九十四間となり、電柱に於ては二十一本増加したるも地中線に於て四百五間の減少を爲したり、而して昭和五年二月十九日を以て總工事を完了し同年三月十日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	二〇本	三、四〇〇.〇〇	三二〇間	一、一八九.五四	一、五三三.五四	元
昭 和 四 年	二元	四六.二六	四八三.〇	一、八〇.五	二、三六.八二	六
計	四九	七九〇.三六	七九三.〇	三、〇九〇.一〇	三、八四〇.三六	100

三 精 算 本地區に於ける契約金額四千七百六十四圓二十二錢内國負擔二千五百七十二圓六十八錢、市負擔二千九百九十一圓五十四錢にして、前渡金は昭和五年三月十日支拂手續を爲し、同年五月二十六日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額三千八百四十圓三十六錢となり契約金額に比し九百二十三圓八十六錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設電柱十一本、地中線三十二間四金額九百七十五圓九十六錢、移設電柱十八本、地中線二百十間八金額二千八百六十四圓四十錢にして國市負擔區分は國二千七十三圓八十錢



市千七百六十六圓五十六錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔	一〇、七四〇・六 <sup>坪</sup>	五	二、四九 <sup>円</sup> ・七	一、九六 <sup>円</sup> ・五	△ 四七 <sup>円</sup> ・二
幹線街路費				一一五・二	△ 二七・七
運河費	五六九・四	三	一四二・九	二〇七・八	△ 四九・八
計	一一、三〇〇・七	八	二、五七三・六	二、〇七三・八	△ 四九・八
市負擔	一、六四七・五〇	八	三八一・二	三〇七・三	△ 七三・九
補助線街路費				一、三四二・二	△ 三三・六
土地整理費	七、五〇・五	五	一、六七四・八	一一五・二	△ 一七・七
小公園費	六〇〇・四	三	一四二・九	一、七六・五	△ 四四・九
計	九、七六八・〇	四	二、一九一・四	一、七六・五	△ 四四・九
合計	二二、〇六八・七	一〇〇	四、七六五・〇	三、八四〇・三	△ 九三三・八

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	三、三三・五 <sup>円</sup>	二、八四・四 <sup>円</sup>	△ 三六七・二 <sup>円</sup>
過不足分(一致せざる部分)	一、〇五・八 <sup>円</sup>	九七五・六	△ 三九八・八
小計	四、三九・三	三、八四〇・三	△ 六六・九

附帶工事分(假工事を含む)	補償額	計
三六・八七	四、七四・三	三、八四〇・三
△	△	△ 九三三・八



既設工作物と整理工作物と一致せる部分  
過不足分(一致せざる部分)  
小計

三、三三・五  
一、三〇五・八四  
四、五三七・三五  
二、八四・四〇  
九七五・九六  
三、八四〇・三六  
△  
△  
△  
三六七・二  
三九・八  
六九六・九

附帯工事分(假工事を含む)	三六・七	△	三六・七
補償額計	四、七四三・三	△	九三三・八六

(ロ) 東電

一 契約 昭和二年九月九日電柱百二十二本、地中線九十七間五及關係工作物に對し整理費一萬千六百二十五圓三十錢を以て整理に關する假契約を爲し更に同三年四月六日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國六千二百七十七圓六十六錢、市五千三百四十七圓六十四錢なり。

二 工事 昭和二年九月九日假契約成立せるを以て同年十月二十七日最初の工事要求を爲し、同年十一月六日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中二件の設計變更を爲したる結果電柱新設五十七本、撤去五十五本計百十二本、地中線新設六間七、撤去五十二間五計五十九間二となり、電柱に於て十本、地中線に於て三十八間三の減少を爲したり、而して昭和四年十一月二十日を以て總工事を完了し同五年二月十九日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	二六本	二、〇二六・四八	五九間	四四七・〇四	二、四七三・五二	二七
昭 和 三 年	六〇	四、七五七・八四	—	—	四、七五七・八四	五
昭 和 四 年	二六	二、〇二六・四八	—	—	二、〇二六・四八	三
計	一一二	八、八〇〇・八〇	五九・二	四四七・〇四	九、二四七・八四	一〇〇



二 精算 本地區に於ける契約金額一萬千六百二十五圓三十錢内國負擔六千二百七十七圓六十六錢、市負擔五千三百四十七圓六十四錢にして、前渡金は昭和三年六月三日支拂手續を爲し同五年六月五日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額九千二百五十七圓八十四錢となり契約金額に比し二千三百六十七圓四十六錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設電柱七本金額九百三十九圓五十二錢、移設電柱五十本地中線三間三金額七千九百四十七圓六十六錢、其他金額三百七十七圓六十五錢にして國市負擔區分は國四千九百九十九圓二十四錢、市四千二百五十八圓六十錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔	幹線街路費 運河費 計	五 三 西	五、九八・九〇 二八八・七六 六、二七・六六	四、七二・五〇 二七七・七四 四、九九・三四	△ 一、二六・四〇 △ 七・〇二 △ 一、二八・三三
市負擔	補助線街路費 土地整理費 小公園費 計	八 三 三 三	九三〇・〇二 四、〇八・六六 三三八・七六 五、三九・四四	七四〇・六四 三、四〇・二四 一七七・七二 四、二五・六〇	△ 一八九・三八 △ 八八・四二 △ 七・〇四 △ 一、一三・八〇
合計	計	一〇〇	一一、二五・三〇	九、二五・八四	△ 二、〇〇・四六

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
工種	契約金額	精算金額	差引増△減



合計	九、七六・五	四六	五、四七・六	四、三六・六	一、〇八・〇
合計	二、〇八・三	一〇〇	一、六五・三	九、三五・八	二、三六・六

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	一〇、一九・四 <sup>円</sup>	七、九〇・七 <sup>円</sup>	△二、二五・七 <sup>円</sup>
過不足分(一致せざる部分)	四七・四	九九・五	五三・四
小計	一〇、六五・四	八、八〇・九	△一、七五・六
附帯工事分(假工事を含む)	一、〇九・三	三七・五	△六四二・八
補償額計	二、一五・〇	九、一七・四	△二、三六・四

第三 瓦 斯

一 契約 昭和二年十二月十日管線路六千九百五十四間及關係工作物に對し整理費二萬九千二十四圓七十六錢を以て整理に關する假契約を爲し更に同三年六月五日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國一萬五千六百七十三圓三十七錢、市一萬三千三百五十一圓三十九錢なり。

二 工事 昭和二年十二月十日假契約成立せるを以て同月十六日最初の工事要求を爲し、同月二十一日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中十件の設計變更を爲したる結果新設三千三百四十二間三、撤去千二百六十三間四、埋殺三千二百六十五間計七千八百七十間七となり管線路に於て九百十六間七の増加を爲したり、而して昭和五年五月一日を以て總工事を完了し同年八月二十五日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。



年 度	管 線		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 二 年	三二・五 <sup>冊</sup>	一、一〇〇・九七 <sup>冊</sup>	四
昭 和 三 年	二、八九七・四	一〇、五五四・〇〇	三
昭 和 四 年	三、〇一八・〇	一〇、八三九・二四	三
昭 和 五 年	一、六三四・〇	五、九九〇・一一	三
計	七、八九七・七	二八、五三四・三三	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額二萬九千二十四圓七十六錢内國負擔一萬五千六百七十三圓三七錢、市負擔一萬三千三百五十一圓三十九錢にして、第一回前渡金は昭和三年七月十七日、第二回前渡金は同四年八月二日支拂手續を爲し、同五年十月二十日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額二萬八千五百二十四圓三十二錢となり、契約金額に比し五百圓四十四錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設千七百十間五金額六千七百四十六圓五十六錢、移設千二百三十七間二金額一萬五千二百五十二圓四十四錢、撤去二十六間二金額五十四圓五十九錢、埋殺千五百五十四間五金額千百十圓三錢、其の他金額五千三百六十圓七十錢にして國市負擔區分は國一萬五千四百三圓十四錢、市一萬三千百二十一圓十八錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負 擔 區 分	潰 地 面 積	比 率 %	契 約 金 額	精 算 金 額	差 引 増 △ 減
---------	---------	-------	---------	---------	-----------



五金額千五百三十三圓三錢、其の他金額五千三百六十圓七十錢にして國市負擔區分は國一萬五千四百三圓十四錢、市一萬三千百二十一圓十八錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔	一〇,七四〇・六一	五	一四,八〇二・六三	一四,五四七・四〇	△ 二五・二三
幹線街路費	五九・四六	三	八七〇・七四	八五七・七四	△ 一五・〇〇
國負擔運河費	二,三〇〇・七	四	一五,六七三・三七	一五,四〇三・一四	△ 二七〇・二三
補助線街路費	一,六四七・五〇	八	二,三二・九八	二,二八一・九五	△ 四〇・〇三
土地整理費	七,五二〇・五一	五	一〇,一五・六七	九,九三・五一	△ 一七・一六
市負擔	六〇〇・四	三	八七〇・七四	八五七・七二	△ 一五・〇二
小公園費	九,七八・五	四	三,三二・九	三,三二・八	△ 〇・一
合計	三,〇八・三	一〇〇	二九,〇四・六	二八,五四・三	△ 五〇・四

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	三,六〇四・三	三,九九〇・〇	△ 六〇五・三
過不足分(一致せざる部分)	一,四二四・二	一,一六四・六	△ 二五九・四
累計する分	二,三五七・五	三,〇四四・八	△ 六八七・一六
小計	二六,三六六・一五	二六,二〇八・四	△ 一五七・七

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理







第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

年 度	電 柱		管 線 路		其 他		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
大正十五年	1本	74.00	3.00	1,895.00	1ヶ所	78.50	2,558.00	六二
昭和元年	1	74.3	3.4	2,816	9	1,330.5	2,596.6	六
昭和二年	1	178.8	4.0	1,055	4.3	337.2	556.4	一三
昭和三年	3							一三
昭和四年	1							一三
昭和五年	1							六

九〇一

工事進捗状況

合 計	支 出 入 口		建 物 移 轉	
	其 他	管 線 路	其 他	管 線 路
計	1ヶ所	7ヶ所	1ヶ所	4ヶ所
數量	66.5	26.7	10.5	10.5
金額	2,580.6	3,001.8	2,580.6	3,001.8
管線路	2ヶ所	1本	2ヶ所	1本
金額	2,908.6	4,694	2,908.6	4,694
其他	1ヶ所	3本	1ヶ所	1本
金額	1,582.0	1,367	1,582.0	743
計	4ヶ所			
數量	47.8			
金額	4,378.2			
歩合%	4,124.7	2,641.9	2,840.2	7.4

道 路 支 障 工 事	管 線 路		電 柱
	其 他	管 線 路	
計	1ヶ所	3.4	1
數量	63.6	28.6	
金額			
管線路			
金額			
其他			
金額			
計	4ヶ所		
數量	47.8		
金額	4,378.2		
歩合%	1,270.0	2,816	15.4



第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

九〇二

年 度	支拂狀況		合 計	%
	市 負	擔 步		
昭 和 二 年	二、六九、一四		二、六九、一四	四
昭 和 三 年	一、五、六		一、五、六	三
昭 和 四 年	一、三六、四二		一、三六、四二	六
昭 和 五 年	二四、〇		二四、〇	五
計	四、一四、七二		四、一四、七二	一〇〇

第一 水道

工事は昭和二年十二月小舟町二丁目三十一番地先に於ける水止栓移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同五年四月駿河町九番地先に於ける消火栓引下工事を最終とし八件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は六百七十四圓五十一錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	三、四 <sup>間</sup>	一、八、一六	六 <sup>ヶ所</sup>	一、六、九四	二、五、一〇	三

昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年
四、〇	一〇、五	三
五、〇〇、五	一〇、五	五、〇〇、五
一	一	一



昭 和 二 年	年 度	管 線 踏 切 の 他	計	歩 合 %
三・四	間	數量	金額	
二八・二六	円	額	數量	
六	ヶ所	金額	金額	
一六・九四	円	額	計	
一三五・一〇	円	額		
三				歩 合 %

支拂状況

昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	計
四・〇			七・四
一〇・五			二八・七
一	三	一	〇
一〇・五	五〇・〇	八・八	五五・八〇
一〇・五	五〇・〇	八・八	六七・五
一	七	一	一〇〇

昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	計
五・四			六四・五
六八・七			一〇・三
一	六	三	一〇〇
五・四	六八・七	一〇・三	六四・五
一	六	三	一〇〇

第二下 水

工事は大正十五年八月小舟町地内に於ける堀留警察署移轉支障となりたる雨水吐管渠を整理せるもの  
一件にして之が整理費は二千五百五十八圓六錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。



工事進捗状況

年 度	管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 十 五 年	二・〇 <sup>間</sup>	一、八元・五	一 <sup>ヶ所</sup>	七元・五	二、五八・〇六	100
大 正 十 五 年	二・〇	一、八元・五	—	七元・五	二、五八・〇六	100
計						

支拂状況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 三 年	二、五八・〇六	—	100
計			

第三 電 氣

(イ) 市 電

工事は昭和三年九月本石町三丁目一番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同六年二月本石町四丁目二十五番地先に於ける變壓塔移設工事を最終とし三件の工事を完了せり、而して之に要したる整理費は二百九十圓四十六錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	電 柱		其 の 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	—	—	—	—	—	—
計						



二、昭和三年九月本町三丁目一番地先の電柱移設工事を最終とし、逐次各種工事を  
 施行し、同六年二月本町四丁目二十五番地先に於ける變壓塔移設工事を最終とし三件の工事を完了せ  
 り、而して之に要したる整理費は二百九十圓四十六錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	一本	四・九四	一ヶ所	一	四・九四	一六
昭 和 五 年	—	四・九四	二	二四・五三	二四・五三	八四
計	—	八・八八	二	二四・五三	二九・四一	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 四 年	四・九四	六
昭 和 五 年	三・二七	六
計	二九・四一	一〇〇

(ロ) 東 電

工事は昭和二年十一月小舟河岸第十五號地内に於ける電柱撤去工事を最初としそれより逐次各種工事を  
 施行し、同四年二月本町二丁目五番地先に於ける電柱移設工事を最終とし四件の工事を全部完了せ  
 り、而して之に要したる整理費は百五十三圓八十八錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

工事進捗状況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	一本	七・四三 <sup>円</sup>	—	—	七・四三 <sup>円</sup>	五
昭 和 三 年	二	一三〇・四	—	—	一三〇・四	九
計	三	一三八・七	—	—	一三八・七	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	市 負	擔	
昭 和 三 年	—	三・八六 <sup>円</sup>	三
昭 和 四 年	—	三三・〇三	九
計	—	一三五・八	一〇〇

第四 瓦 斯

工事は昭和二年六月小舟町三丁目十二番地先に於ける瓦斯管切廻工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同三年十月小舟町一丁目より堀江町二丁目十一番地先に至る瓦斯管切廻工事を最終とし三件の工事を完了せり、而して之に要したる整理費は四百三十七圓八十一錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	瓦 斯 管 切 廻 其 他		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 二 年	—	—	—
昭 和 三 年	—	—	—
計	—	—	—



工事は昭和二年六月小舟町三丁目十二番地先に於ける瓦斯管切廻工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同三年十月小舟町一丁目より堀江町二丁目十一番地先に至る瓦斯管切廻工事を最終とし三件の工事を完了せり、而して之に要したる整理費は四百三十七圓八十一錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	瓦 斯 管 切 廻 其 の 他		歩 合 %
	數	金 額	
昭 和 二 年	三 <sup>ヶ</sup> 所	一六・二 <sup>円</sup>	二七
昭 和 三 年	四	三三・七〇	七三
計	七	四九・九〇	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 二 年	六・〇八 <sup>円</sup>	一四
昭 和 三 年	五五・〇三	一三
昭 和 四 年	三二・七〇	七三
計	四七・八一	一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數三十九件整理費二萬千四百一圓九十二錢にして昭和四年二月三日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局三件金額四千九百八十八圓二十五錢、市電氣局十件金額千六百八十八圓八錢、東京電燈株式會社二十二件金額一萬二千二百八十八圓八十五錢、東京瓦斯株式會社四件金額三千八百五十











れより逐次各種工事を施行し、同年四月本町三丁目及大傳馬町一丁目地先に於ける電柱移設工事を最終とし十件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は千六十六圓八錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	電 柱		地 中		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 四 年	六	四九五・三元	一	四三・三元	八七〇・五	七
昭 和 五 年	三	二九〇・三元	一	四三・三元	三九〇・三元	三
計	九	七八五・三元	二	八六・三元	一、〇七二・〇八	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	金 額	歩 合 %	
昭 和 四 年	三九・三元	五	
昭 和 五 年	六六・七四	六	
計	一、〇六〇・〇八	一〇〇	

(ロ) 東 電

工事は昭和四年二月本銀町一丁目十四番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同年九月本石町二丁目及本町二丁目地先に於ける電柱移設工事を最終とし二十二件の工事を

全部完了せり、而して之に要したる整理費は一萬二千二百八十二圓八十五錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況



工事は昭和四年二月本銀町一丁目十四番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同年九月本石町二丁目及本町二丁目地先に於ける電柱移設工事を最終とし二十二件の工事を

全部完了せり、而して之に要したる整理費は一萬二千二百八十二圓八十五錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		其 の 他		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
昭 和 三 年	三本	一、六六・五四	四間	八・九六	一ヶ所	五・九六	一、七五四・四八
昭 和 四 年	二三	一〇、一八・三六	一八七・九	三三・九一	一	一六・一〇	一〇、五八・三七
計	二七	一一、八四・九〇	一九三・〇	四〇・八七	二	三三・〇六	三三、二八・八五
							一〇〇

支拂狀況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	歩 合 %
	金額	歩合%	金額	歩合%		
昭 和 三 年	一	八・九六	一	八・九六	一	一
昭 和 四 年	一	五・九六	一	七・五三	一	九
計	二	一四・九二	二	一六・四九	二	一〇〇

第三 瓦 斯

工事は昭和四年六月大傳馬町一丁目十三番地先より同二十五番地先に至る瓦斯管移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同五年三月金吹町一番地先より北鞆町一番地先に至る瓦斯管移設工事を

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

を最終とし四件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は三千八百五十四圓七十四錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線		路 額	歩 合 %
	數 量	金 額		
昭 和 四 年	八二九	三、八四七圓	三、八四七圓	一〇〇
計	八二九	三、八四七圓	三、八四七圓	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 五 年	三、三〇六	七
計	三、八四七圓	一〇〇

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十五年十二月十日より之を開始し昭和

三年十二月二十二日迄に全部の受付を了したり、而して工事は昭和二年四月八日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し同四年七月二十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件數は七千二百七十二件金額十六萬二千二百六十六圓六十五錢にして、之を事業別に見る



### 第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十五年十二月十日より之を開始し昭和

三年十二月二十二日迄に全部の受付を了したり、而して工事は昭和二年四月八日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し同四年七月二十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は七千二百七十二件金額十六萬二千二百六十六圓六十五錢にして、之を事業別に見るときは水道二千三百七十七件金額六萬四千三百二十一圓六十二錢、市電百六十一件金額千七百八十八圓七十九錢、東電二千八百四十件金額四萬三千三百六十六圓八十錢、瓦斯千八百六十七件金額五萬二千九百二十九圓四十五錢、電話二十七件金額五百七十圓八錢なり、尙建物一棟當りの裝置數を見るに水道〇・八栓、電燈四〇・四燈、瓦斯〇・六三個(計量器數なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 狀 況			支 拂 狀 況			計 額	歩 合 %
	件 數	金 額	歩 合 %	國 負 擔	市 負 擔	合 計		
昭 和 二 年	五〇九	一、三〇〇・四六	七	—	—	—	—	—
昭 和 三 年	六、〇六二	一、四三、六五・五九	八三	—	—	—	—	—
昭 和 四 年	七〇	一六、三〇〇・六〇	一〇	—	—	—	—	—
昭 和 五 年	—	—	—	—	—	—	—	—
未 濟	—	—	—	—	—	—	—	—
計	七、二二三	一、三三、三三〇・三三	一〇〇	—	—	—	—	—

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂濟のもの。

前記の内事業者拂に屬するもの七千二百四十五件金額十三萬二千九百八十八圓八十二錢にして、内國負擔

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

三千百二十八件金額五萬千二百七十一圓八十三錢、市負擔四千百十七件金額八萬八百二十六圓九十九錢なり、尙現金補償に屬するもの移設費を含む二千百七件金額三萬百六十七圓八十三錢にして内國負擔千二百五十一件金額一萬八千五百四十二圓七十四錢、市負擔八百五十六件金額一萬千六百二十五圓九錢なり、其の負擔狀況を示せば左の如し。

種別	水道		市電		電東		電瓦		斯電		話電		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
事業者拂	國負擔	一、〇四八	二、四七九・八五	六三	三三・〇四	一、三三〇	一一、〇〇三・二四	七六八	一八、四三六・七〇	—	—	三、二二八	五、二七一・八三
	市負擔	一、三三九	三、三九〇・四六	九	六〇・五〇	一、五九〇	一八、一三三・七七	一、〇九九	三〇、七二二・二六	—	—	四、二一七	八〇、八二六・九九
再設費補償	國負擔	三〇一	六、八七九・〇三	六	六三・三六	六〇	八、〇八四・二六	三四	三、三三六・一〇	—	—	一、二四一	一八、三三二・七五
	市負擔	二二	四、五七二・二六	五	五・八〇	五八	六、一五五・五三	三	四四・三九	—	—	八三九	一一、二三五・〇〇
移設費補償	國負擔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	市負擔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
現金補償(個人拂)	國負擔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	市負擔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	國負擔	一、〇四八	二、四七九・八五	六三	三三・〇四	一、三三〇	一一、〇〇三・二四	七六八	一八、四三六・七〇	—	—	三、二二八	五、二七一・八三
	市負擔	一、三三九	三、三九〇・四六	九	六〇・五〇	一、五九〇	一八、一三三・七七	一、〇九九	三〇、七二二・二六	—	—	四、二一七	八〇、八二六・九九
合計	國負擔	一、〇四八	二、四七九・八五	六三	三三・〇四	一、三三〇	一一、〇〇三・二四	七六八	一八、四三六・七〇	—	—	三、二二八	五、二七一・八三
	市負擔	一、三三九	三、三九〇・四六	九	六〇・五〇	一、五九〇	一八、一三三・七七	一、〇九九	三〇、七二二・二六	—	—	四、二一七	八〇、八二六・九九

備考 合計件數欄中には再設費補償件數を含まず。

第一 水道

大正十五年十二月十日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十二月二十二日迄に全部の受付を了せり、工事は昭和二年四月八日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し同四年七月十五



備考 合計件数欄中には再設費補償件数を含まず。

計	二、三三七	四、三三三	一、六二七	二、八四〇	四、三三六	一、八八七	五、九三三	七、五〇八	七、二七三	一、三三三	一、三三三
---	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

### 第一 水道

大正十五年十二月十日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十二月二十二日迄に全部の受付を了せり、工事は昭和二年四月八日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し同四年七月十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は二千三百七十七件金額六萬四千三百二十一圓六十二錢にして内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの五百十四件金額一萬千四百五十一圓三一錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況			支 拂 状 況			計
	件 數	金 額	歩 合 %	國 負 擔	市 負 擔	合 計	
昭和二年	一六	四、四九・九六	七	—	—	—	—
昭和三年	一、九七三	五、三九・三六	八三	一三、〇四・九三	一、〇九三	一、〇九三	一、〇九三
昭和四年	二二六	六、四〇・二六	〇	一四、七九・四四	一、二八九	一、二八九	一、二八九
昭和五年	—	—	—	一、三六・五三	—	—	—
未 済	—	—	—	—	—	—	—
計	二、三三七	四、三三・三三	一〇〇	二八、一六・九〇	二、一八二	二、一八二	二、一八二

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂済のもの。

### 第二 電 氣

#### (イ) 市 電

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

大正十五年十二月十二日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十二月二十日迄に全部の受付を了せり、工事は昭和二年五月十七日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し同四年六月十九日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は百六十一件金額千七百八圓七十錢にして内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの十一件金額百十六圓十六錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況			支 拂 状 況			計 額	歩 合 %
	件 數	金 額	歩 合 %	國 負 擔 件 數	國 負 擔 金 額	市 負 擔 件 數		
昭 和 二 年	二	五・七〇	七	—	—	—	—	—
昭 和 三 年	一三	八七・八〇	三	—	二七・三〇	三	二〇七・七〇	—
昭 和 四 年	一六	一〇・二〇	〇	三	二四・五〇	五	三七・二〇	—
昭 和 五 年	—	—	—	八	五・六〇	三	八〇・四〇	—
計	三二	一〇六・七〇	一〇〇	三	四五・四〇	九	六三・三〇	—

(ロ) 東 電

大正十五年十二月十日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十二月十六日迄に全部の受付を了せり、工事は昭和二年四月八日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し同四年七月二十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は二千八百四十件金額四萬三千三百六十六圓八十錢にして内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの千二百十八件金額一萬四千二百四十九圓七十

九錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。



大正十五年十二月十日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十二月十六日迄に全部の受付を了せり、工事は昭和二年四月八日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し同四年七月二十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は二千八百四十件金額四萬三千三百六十六圓八十八錢にして内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの千二百十八件金額一萬四千二百四十九圓七十

九錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況			支 拂 状 況		
	件 數	金 額	歩 合 %	國 負 擔	市 負 擔	合 計
昭和二年	一九	三、〇三六・七三	七	—	—	—
昭和三年	二、三三七	三、九一〇・九三	八三	九、七四二・二六	二、三三三・九七	一、四四九
昭和四年	二八四	四、三三六・六六	一〇〇	七、五九〇・九二	九、六九〇・八四	一、二三六
昭和五年	—	—	—	一、七四三・三三	二、一三三・六二	一、五五
未 済	—	—	—	—	二〇・八八	二〇・八八
計	二、八四〇	四三、三六六・八〇	一〇〇	一九、〇八五・五〇	二四、二七九・三〇	二、八四〇
				一、五九〇・五	△	四三、三六六・八〇
						一〇〇

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂済のもの。

### 第三 瓦 斯

大正十五年十二月十五日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十二月十八日迄に全部の受付を了せり、工事は昭和二年四月十一日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し同四年七月五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は千八百六十七件金額五萬二千九百二十九圓四十五錢にして内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの三百三十七件金額三千七百八十圓四十九錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理







昭和二年	件数	金額	歩合%	昭和二年	件数	金額	歩合%
	二	四二・三	八		一	一	一
昭和三年	件数	金額	歩合%	昭和三年	件数	金額	歩合%
	三	四六・五	八		一	一	一
昭和四年	件数	金額	歩合%	昭和四年	件数	金額	歩合%
	三	六三・三	二		一	一	一
昭和五年	件数	金額	歩合%	昭和五年	件数	金額	歩合%
	一	一	一		一	一	一
計	七	五七〇・八	一〇〇	計	七	五七〇・八	一〇〇

昭和二年	件数	金額	歩合%	昭和二年	件数	金額	歩合%
	二	四二・三	八		一	一	一
昭和三年	件数	金額	歩合%	昭和三年	件数	金額	歩合%
	三	四六・五	八		一	一	一
昭和四年	件数	金額	歩合%	昭和四年	件数	金額	歩合%
	三	六三・三	二		一	一	一
昭和五年	件数	金額	歩合%	昭和五年	件数	金額	歩合%
	一	一	一		一	一	一
計	七	五七〇・八	一〇〇	計	七	五七〇・八	一〇〇

第四章 道路占用

本地区に於ける占用事務は昭和二年三月三十日開始し同四年五月三十一日閉止の豫定なりしが建物移轉並道路工事の關係により同年十月十五日之を閉止せり、而して翌五年二月二十八日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地区に於ては昭和二年四月九日市水道局に對し一括承認を爲したるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可又は承認は同年六月二十一日東京電燈株式會社に許可せるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲し昭和四年十月十五日市水道局に承認せるを最終とし、要求工事千二百三十七件、非要求工事九百三十六件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。



事業業者	一括占用許可 承認年月日	分	割	許	可承認		計
					要求工事	非要求工事	
市水道局	昭和二、四、九	昭和二、一〇、八	昭和四、一〇、二五	六九	四四五	一、〇、四	
市土木局下水課	昭和二、四、〇	昭和二、二、二四	昭和四、六、二五	一	七	七	
市電氣局	昭和二、五、六	昭和二、二、六	昭和四、八、二六	六	三	三	
東京電燈株式會社	昭和二、四、〇	昭和二、六、三	昭和四、一〇、二四	三	三	三	
東京瓦斯株式會社	昭和二、四、〇	昭和二、七、七	昭和四、一〇、五	五	四〇	九	
遞信省		昭和二、七、四	昭和四、七、二四	九	七	一六	
警視廳	昭和二、六、七	昭和三、一〇、八	昭和三、一〇、八	一	一	一	

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は千二百三十七件其の延長一萬四千四十七間三三五、掘鑿面坪四千三百三十八坪三三にして之を事業者別に見るときは市水道局六百十九件其の延長五千二十二間四三、掘鑿面坪千六百二十五坪六七三、市電氣局六件其の延長三百九十一間九八五、掘鑿面坪百三十坪〇九二、東京電燈株式會社三十八件其の延長五百十五間三三、掘鑿面坪二百五十坪五五、東京瓦斯株式會社五百六十五件其の延長七千八百五十九間六、掘鑿面坪二千二百十五坪四〇五、遞信省九件其の延長二百五十七間九九、掘鑿面坪百十六坪六一なり、尙之を類別すれば大掘鑿八十八件其の延長一萬五千五十四間一〇五、掘鑿面坪三千三百八十四坪六七二、小掘鑿千四百四十九件其の延長二千九百九十三間二三、掘鑿面坪九百五十三

坪六五八なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

大掘鑿小掘鑿計



其の延長七千八百五十九間六、掘鑿面坪二千二百五十五坪五五、東京瓦斯株式會社五百六十五件、掘鑿面坪百十六坪六一なり、尙之を類別すれば大掘鑿八十八件其の延長一萬千五百四十四間一〇五、掘鑿面坪三千三百八十四坪六七二、小掘鑿千四百四十九件其の延長二千九百九十三間二三、掘鑿面坪九百五十三

坪六五八なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大		小		計	
		掘鑿	掘鑿	掘鑿	掘鑿	掘鑿	掘鑿
件數	延長	件數	延長	件數	延長	件數	延長
昭和二年	市水道局	一	二〇二・九〇〇	二七	八四・五〇〇	二八	二八七・四〇〇
	市電氣局	一	一〇三・四〇〇	—	—	一	一〇三・四〇〇
	東京電燈株式會社	五	一〇五・一六〇	—	—	五	一〇五・一六〇
	東京瓦斯株式會社	二	六・四〇〇	四三	六・四〇〇	四五	六・八〇〇
	遞信省	一	七〇・〇〇〇	—	—	一	七〇・〇〇〇
	計	一〇	四八七・八六〇	七〇	一四七・九〇〇	八〇	六三三・七六〇
	市水道局	八	九七三・三〇〇	二〇七	六七二・二〇〇	二一五	一、六四四・五〇〇
	市電氣局	二	二二七・二五〇	—	—	二	二二七・二五〇
	東京電燈株式會社	一九	一七〇・五〇〇	—	—	一九	一七〇・五〇〇
	東京瓦斯株式會社	二	五、三八七・三〇〇	三七	六五二・八〇〇	三九	六、四〇〇・一〇〇
	遞信省	五	一四六・〇〇〇	—	—	五	一四六・〇〇〇
	計	四六	六、八〇〇・三七〇	五四	一、三五〇・〇〇〇	五〇	八、一五〇・三七〇
昭和三年	市水道局	七	一、九三七・五〇〇	三六九	一、二五三・〇〇〇	三七六	三、〇九〇・五〇〇
	市電氣局	三	七一・三三五	—	—	三	七一・三三五
	東京電燈株式會社	一四	二七二・六七〇	—	—	一四	二七二・六七〇
	計	四六	六、八〇〇・三七〇	五四	一、三五〇・〇〇〇	五〇	八、一五〇・三七〇
	市水道局	四	六、八〇〇・三七〇	—	—	四	六、八〇〇・三七〇
	市電氣局	—	—	—	—	—	—
	東京電燈株式會社	—	—	—	—	—	—
	東京瓦斯株式會社	—	—	—	—	—	—
	遞信省	—	—	—	—	—	—
	計	四	六、八〇〇・三七〇	—	—	四	六、八〇〇・三七〇
	市水道局	—	—	—	—	—	—
	市電氣局	—	—	—	—	—	—
東京電燈株式會社	—	—	—	—	—	—	
東京瓦斯株式會社	—	—	—	—	—	—	
遞信省	—	—	—	—	—	—	
計	—	—	—	—	—	—	



















第十一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

電 纜 東 電	遞 信	瓦 斯	電 柱	計
八七三・四〇〇 <sub>間</sub>	二九四・八〇〇 <sub>間</sub>	四、五三三・三〇〇 <sub>間</sub>	二六 <sub>本</sub>	一三、三二一・〇八四 <sub>間</sub>
三三三・六九〇 <sub>間</sub>	一七七・〇四〇 <sub>間</sub>	三、七六六・二〇〇 <sub>間</sub>	二六 <sub>本</sub>	五、七七八・八四三 <sub>間</sub>
		一、六六八・三〇〇 <sub>間</sub>		一、九三三・三〇〇 <sub>間</sub>
一、二八六・一〇〇 <sub>間</sub>	四七一・八四〇 <sub>間</sub>	九、九五七・八〇〇 <sub>間</sub>	四八四 <sub>本</sub>	二〇、九三三・一三六 <sub>間</sub>

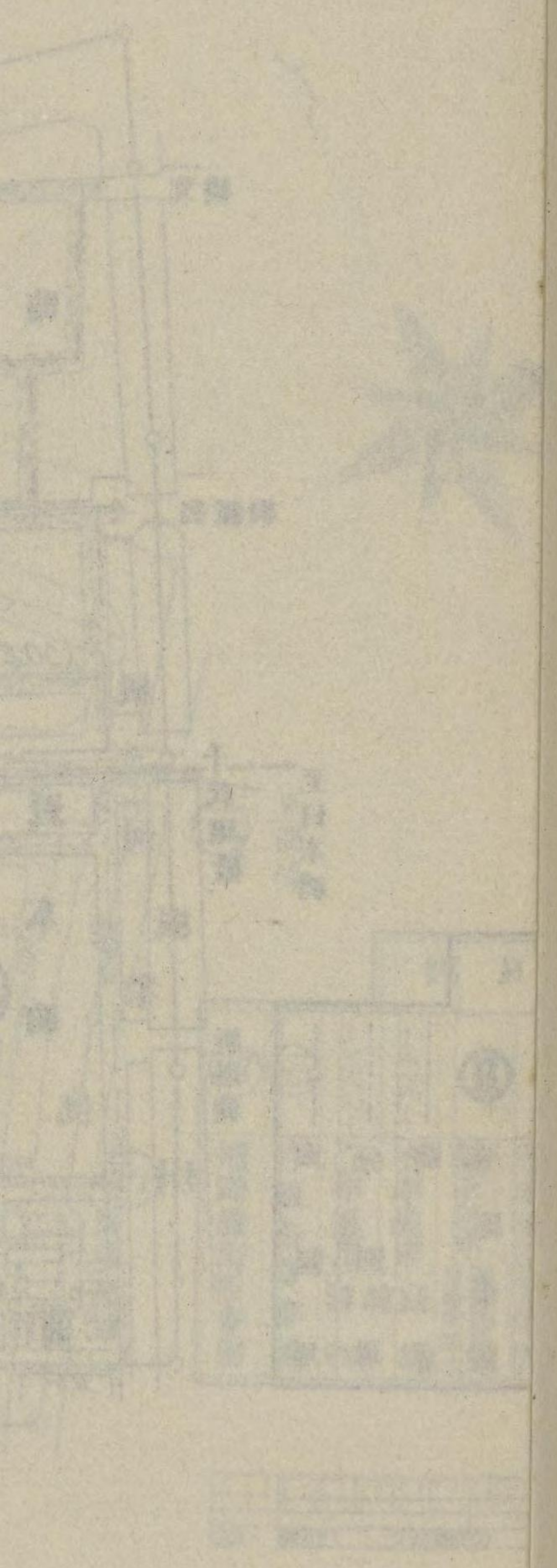
九二六



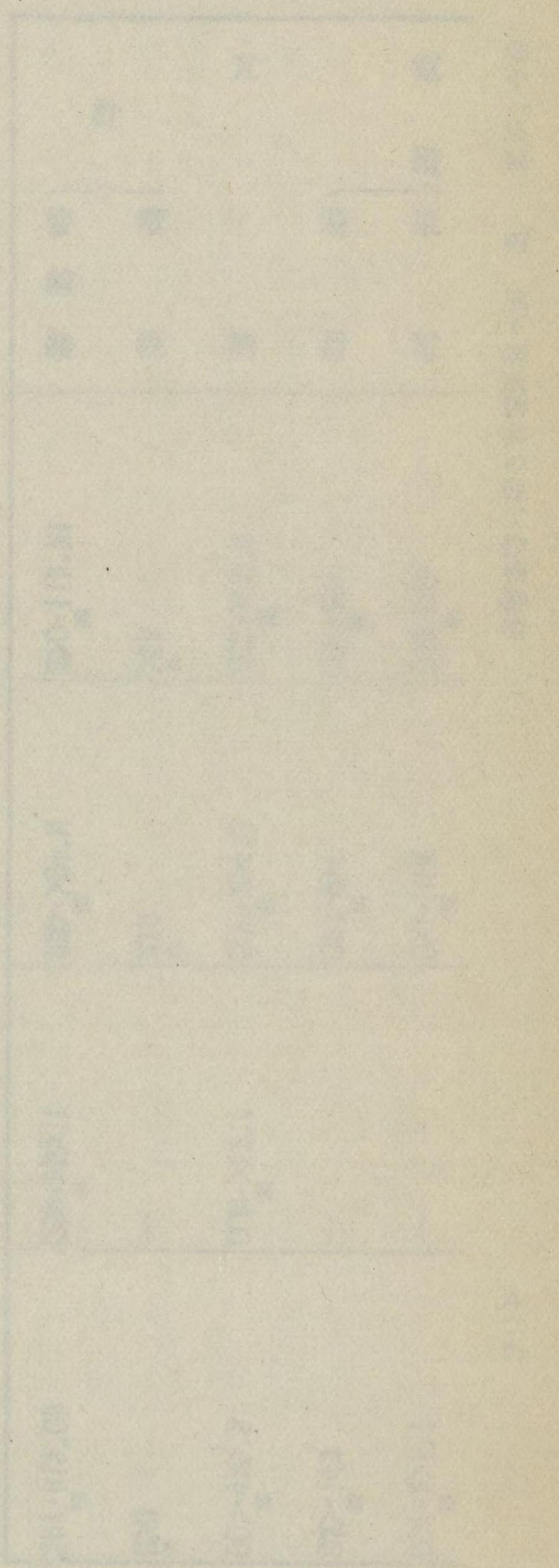
第十五地區



訓編譜



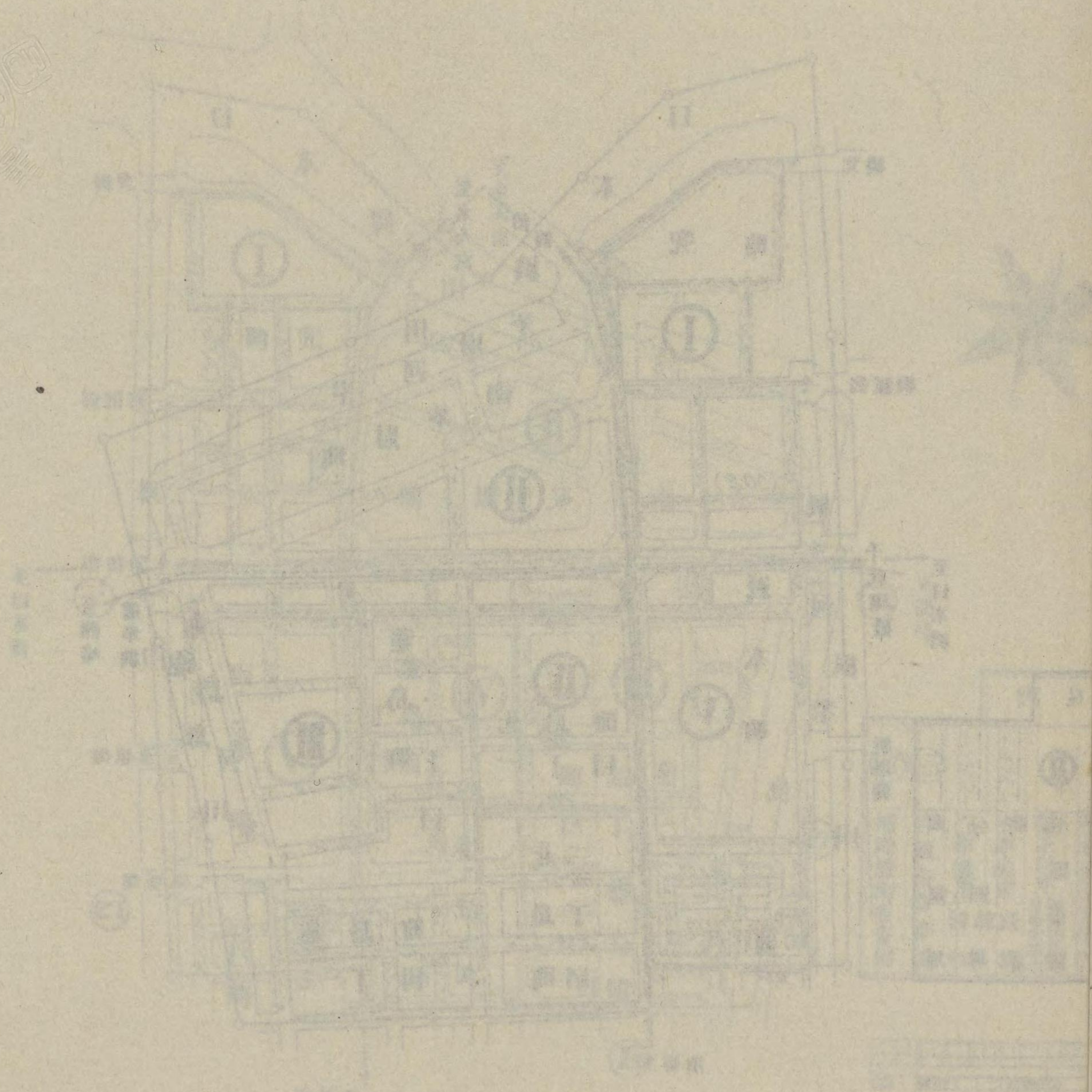
第十正賦圖





東國海國圖說

( 卷後 地理 圖 )





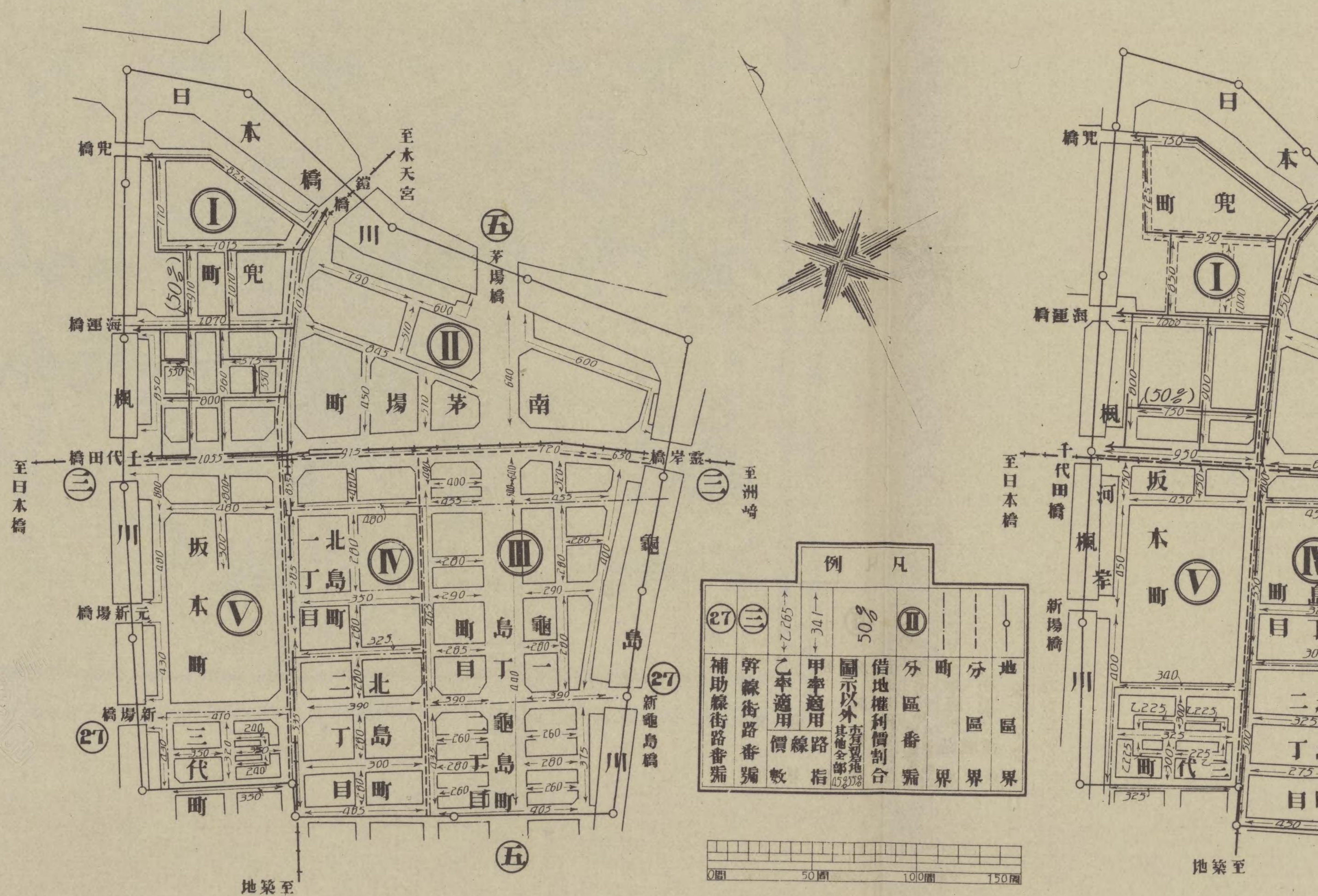




# 圖况概後前理整區地五十

(後理整)

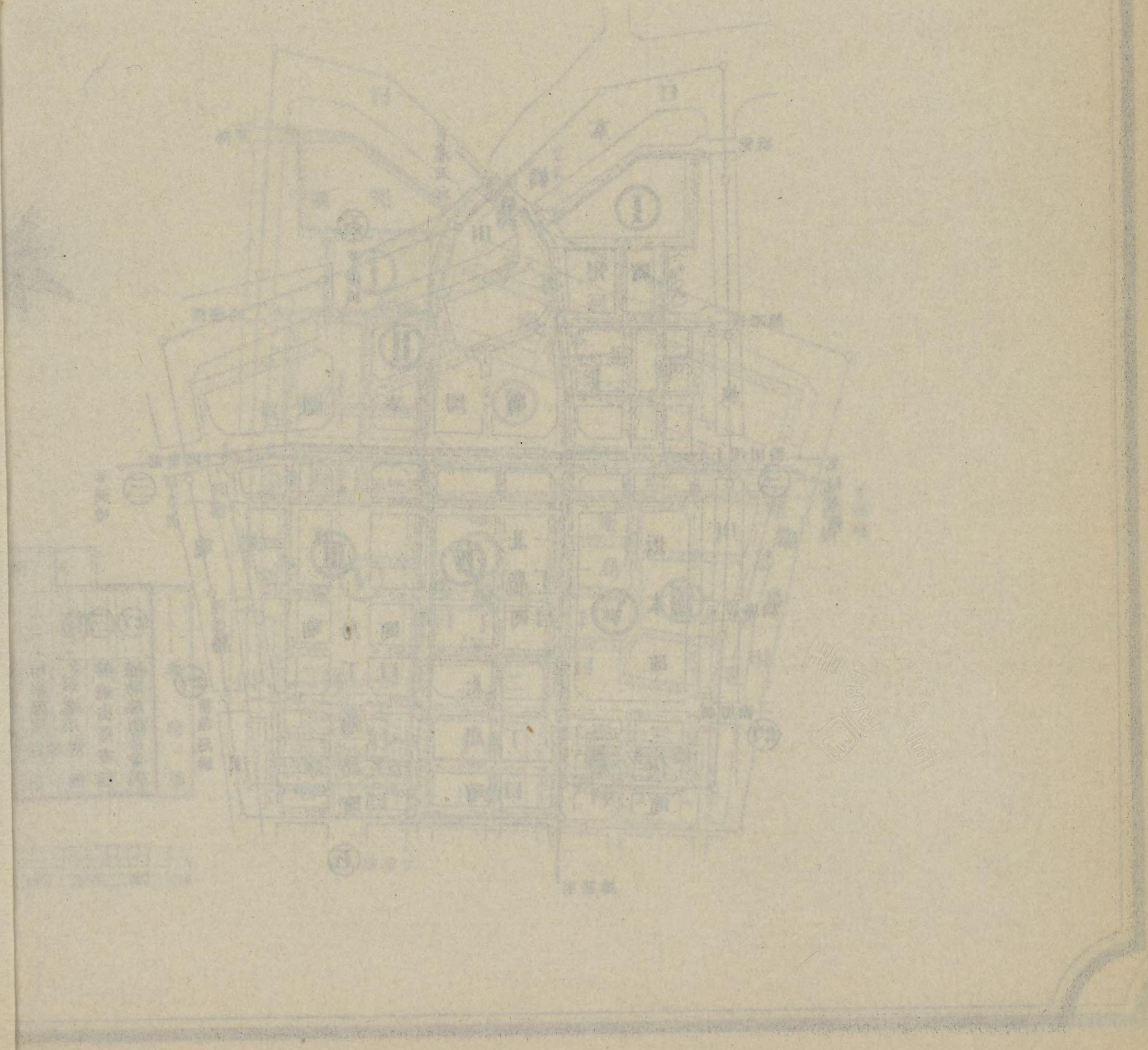
(前)





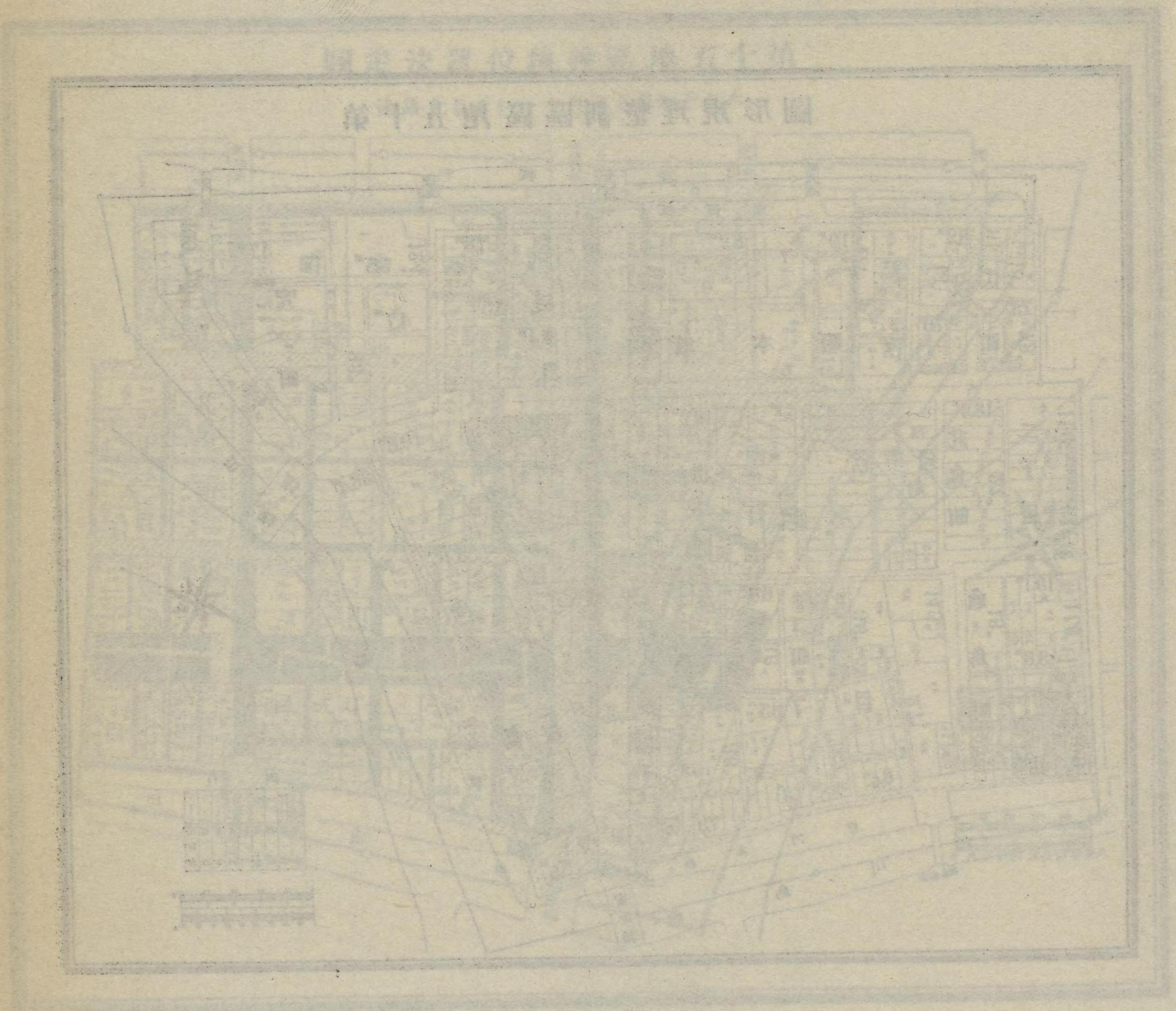
第十圖 鳳凰城

(整 理 附 圖)





1954年  
10月



新 華 書 局 出 版

( 附 圖 )



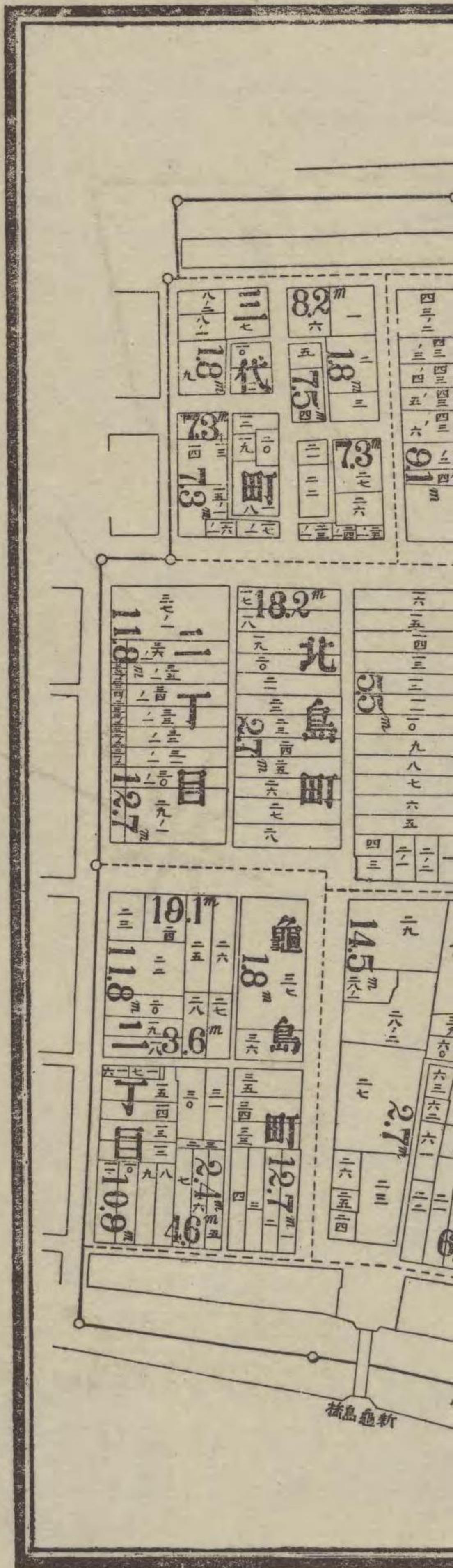
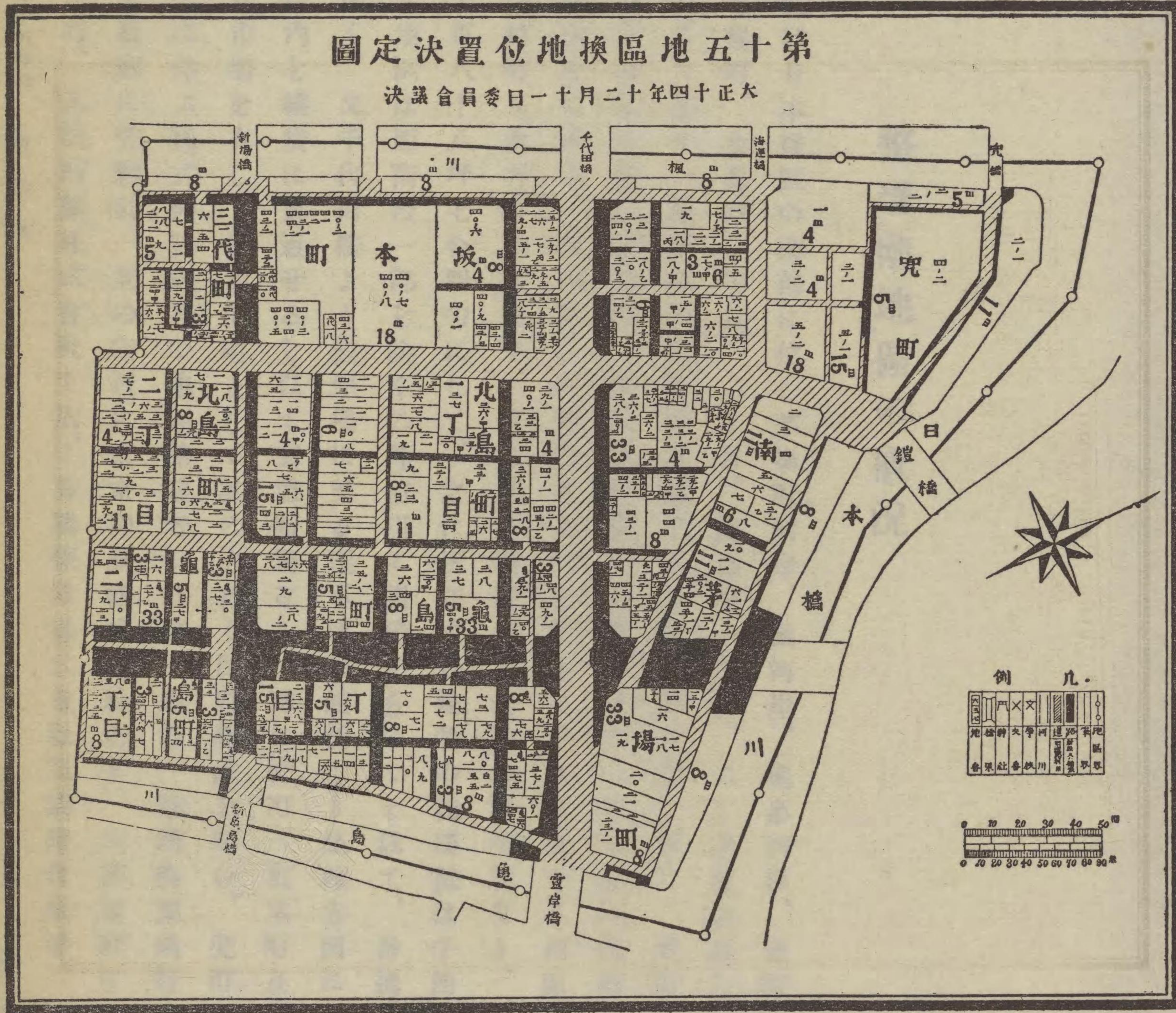






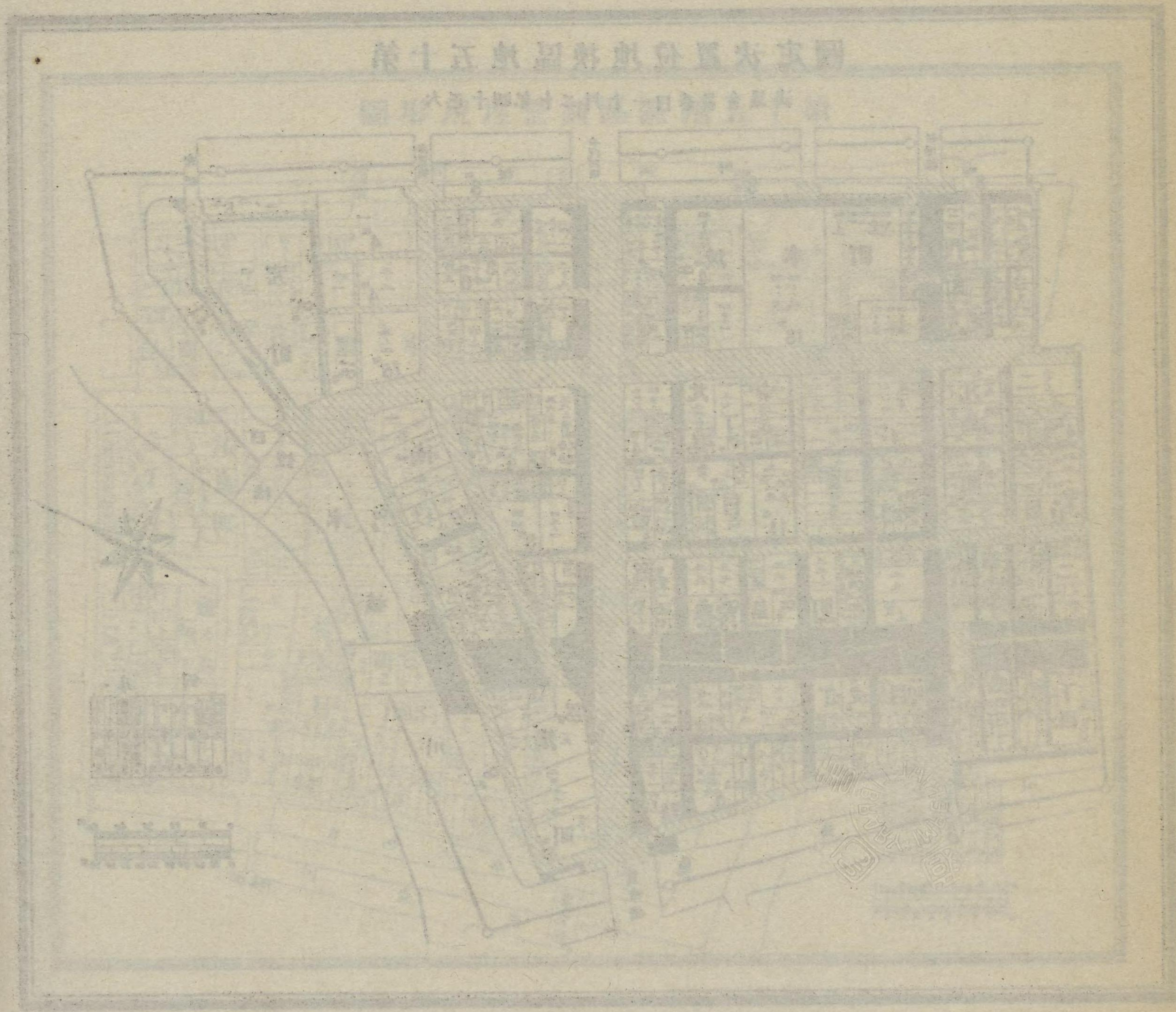
# 圖定決置位地換區地五十第

決議會員委日一十月二十年四十四正大





整理前地區の概況





## 整理前地區の概況

本地區は日本橋區の南部に位し茅場町河岸、楓河岸、龜島河岸、兜町、坂本町、三代町、南茅場町、北島町一丁目、二丁目、龜島町一丁目、二丁目を包括し、東北部は日本橋川を隔て、第十一地區の末廣河岸及第十三地區の鎧河岸に對し、東南部は龜島川を隔て、第十九地區京橋區富島町、靈岸島町及川口町に面し、西北部は楓川を隔て、第十四地區本材河岸に臨み、西南部は四間乃至七間の街路に依りて第十八地區京橋區松屋町一丁目、岡崎町及水谷町に隣接す、其の形狀稍菱形を爲し地勢平坦なり、地區の總面積は七萬六千八百八十八坪七合四勺にして、之に所在する建物の總棟數は千四百三十棟なり、而して本地區は西南の一部を除くの外河川に圍繞せらるゝを以て、舟楫の便に富み貨物の集散多く、又千代田橋より靈岸橋に至る電車通並鎧橋より築地方面に至る電車通は、共に地區内を縦横に貫通せるを以て交通頻繁なり、殊に兜町、坂本町及南茅場町一帯の地は株式市場を有し、所謂兜町として其の名あり四時雜踏を極む、兜町には東京株式取引所、之に伴ふ株式仲買店其他關係業者の外第一銀行、帝國商業銀行等諸銀行會社集團し、兜橋際に兜神社、其の附近に東京印刷株式會社あり、南茅場町には日枝神社、東京貯蓄銀行、大阪商船株式會社支店、有隣保險株式會社及澁澤倉庫等、茅場町河岸及龜



島河岸には倉庫、運送業及酒類、罐詰、米穀商等、坂本町には坂本公園を繞りて東京市日本橋女子高等小學校、同坂本尋常小學校、日本橋消防署等、北島町一丁目には中外商業新報社あり、其の他北島町一、二丁目及龜島町一、二丁目裏通は住宅其の大部分を占む。

整地前敷地の状況

（以下は非常に淡く印刷された本文が続く）

甲 整地

（以下は非常に淡く印刷された本文が続く）



# 甲 整 地

## 第一章 土地區劃整理委員會

### 第一節 委 員

#### 第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第十五地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各十六人にして、其の選舉を大正十三年五月十三日日本橋區役所に於て執行したるに、何れも左記の適當選せり。

#### 一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

中澤 要輔

大塚 彌吉

福井 藤次郎

勝見 興吉

坂井 和吉

秋山 行藏

田中 銀之助

太田 利兵衛

借地権者の部

伊 藤 清

田崎 治久

山野 井周作

株式會社 田中商店

笹沼 源之助

島田 定吉

片岡 辰次郎

田口 重一

#### 二 同上補闕委員

土地所有者の部

德田 昂平

廣田 米吉

岡部 文助

田中 梅吉

櫻井 實龍

米津 豐次郎

荒澤 平兵衛

鈴木 圭三

第十五地區 甲 整地



借地権者の部

塚本長三郎	皆川卯太郎	館野吉次郎	鴻巣 鴻	小島賢松
中村貫一郎	木村峯藏	久保田正治		

第二 議長並副議長の選挙及其の異動

大正十三年六月十三日日本橋區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長伊藤清、議長及副議長選挙の方法を諮りたるに假議長の指名に決したるを以て、左の如く指名したり。

議長 中澤要輔 副議長 大塚彌吉  
 議長中澤要輔昭和三年三月十八日死亡したるに因り、同年五月十五日副議長大塚彌吉、議長選挙を執行したるに左の通常選

副議長 伊藤清  
 副議長大塚彌吉議長に當選したるに因り同日議長大塚彌吉、副議長の選挙を執行したるに左の通常選

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

- 一 土地所有者選出委員中澤要輔昭和三年三月十八日死亡したるに因り、同月三十日同補闕委員徳田昂平補充せらる。
- 二 土地所有者選出委員勝見與吉昭和三年十二月二十日辭任したるに因り、昭和四年一月十五日田中梅吉補充せらる、(同人先順者廣田米吉は死亡し、岡部文助は失格したるに因る)

第二節 諮問及答申

- 一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件



土地所有権者選出委員中澤要輔昭和三年三月十八日死亡したるに因り、同月三十日同補選委員徳田昂平補充せらる。

二 土地所有者選出委員勝見與吉昭和三年十二月二十日辭任したるに因り、昭和四年一月十五日田中梅吉補充せらる、(同人先順者廣田米吉は死亡し、岡部文助は失格したるに因る)

## 第二節 諮問及答申

### 一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は、大正十四年二月二十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し二月十日限東京市役所へ出願したる者にして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

備考 土地面積訂正を東京市役所に出願せむとするものは、該願書に實測圖を添付し隣地主の同意を得て市役所より調査の際は隣地主の立會を要す、但し臺帳面積との差百分の一以下は之を訂正せず。

右大正十三年十二月十三日諮問

同日原案可決の上答申

### 二 諮問第二號 換地位置並區劃整理街路に關する件 (地區全部)

大正十三年十二月十三日諮問

委員會九回開催

大正十四年十二月二十四日修正決議の上答申

### 三 諮問第三號 整理前路線價指數に關する件 (地區全部)

大正十三年十二月十三日諮問

昭和三年十一月十五日撤回

#### 議事要綱

本案は換地處分案提出後審議すべきものとして決定を見ざりしが、昭和三年十一月十五日土地各筆



清算に關する件を諮問するに當り、之が内容を爲すものとして當局は本案を撤回せり。

四 諮問第四號 一部換地面積決定に關する件 (龜島町一丁目、同二丁目、南茅場町、三代町、兜町及坂本町の各一部)

大正十五年四月十七日諮問

同日原案可決の上答申

五 諮問第五號 一部換地面積決定に關する件 (龜島町一丁目、南茅場町、坂本町及北島町二丁目の各一部)

大正十五年七月二十八日諮問

同日原案可決の上答申

六 諮問第六號 一部換地面積決定に關する件 (龜島町一丁目、同二丁目、坂本町及南茅場町の各一部)

大正十五年十月十三日諮問

同日原案可決の上答申

七 諮問第七號 一部換地面積決定に關する件 (北島町一丁目の一部)

大正十五年十二月二十四日諮問

委員會二回開催

昭和二年一月二十五日原案可決の上答申

八 諮問第八號 一部換地位位置竝面積變更に關する件 (龜島町一丁目、同二丁目、南茅場町、北島町一丁目、同二丁目、三代町、坂本町及兜町の各一部)

昭和二年七月一日諮問

委員會二回開催

昭和二年八月十二日原案可決の上答申

九 諮問第九號 一部換地位位置竝面積變更に關する件 (南茅場町、北島町一丁目及同町二丁目の各一部)

同日原案可決の上答申

昭和二年八月十二日諮問

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

一〇 諮問第十號 一部換地位位置竝面積變更に關する件 (南茅場町の一部)



昭和二年七月一日諮問  
委員會二回開催

昭和二年八月十二日原案可決の上答申

九 諮問第九號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (南茅場町、北島町一丁目  
及同町二丁目の各一部)

昭和二年八月十二日諮問  
同日原案可決の上答申

一〇 諮問第十號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (南茅場町の一部)

昭和二年八月十二日諮問  
同日原案可決の上答申

一一 諮問第十一號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (南茅場町、龜島町一丁目  
及北島町一丁目の各一部)

昭和三年五月十五日諮問  
同日原案可決の上答申

一二 諮問第十二號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (坂本町及龜島町  
一丁目の各一部)

昭和三年十一月十五日諮問  
同日原案可決の上答申

一三 諮問第十三號 土地各筆清算に関する件

昭和三年十一月十五日答申期限を同年十一月三十日として諮問

委員會一回 協議會十四回 特別委員會七回開催

昭和四年三月十八日本案撤回

#### 議事要綱

本案に付ては委員會に於て修正意見あり、且換地處分案を決議するを以て足るものとし其の決定を見ざりしが、當局は委員會の修正意見を參酌して換地處分案を作成し、昭和四年三月十八日之を諮問すると同時に本案を撤回せり。



一四 諮問第十四號 換地處分に關する件

昭和四年三月十八日諮問

同日原案可決の上答申

一五 諮問第十五號 補償金配當割合決定に關する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合を左の通定めむとす。

日本橋區龜島町一丁目十六番ノ二、六十五番、六十七番及北島町二丁目五番ノ二、六番ノ二に對する配當割合は整理前指數相當額とす、前項以外の土地に對する配當割合は補償總指數より前項の配當額を控除したるものを、特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依るものとす。

右昭和四年三月十八日諮問

同日原案可決の上答申

一六 諮問第十六號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申後土地又は土地に關する權利に變動ある場合の處分方の件

諮問第十四號換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申後、換地處分告示の日迄に於て土地の分合又は土地に關する權利の得喪、變更あるときは左記の通換地説明書を變更せむとす。

記

一 土地分合の登記ありたるときは、其の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數並清算金額を算出し、以て換地説明書中當該部分を變更す。

二 借地權設定の登記若は届出ありたる時、又は所有權及借地權の移轉並借地權に付轉貸の登記若は届出ありたる時は、當該權利の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數及清算金額を算出し、

換地説明書中當該部分を變更す。

三 處分の制限に關する登記ありたる時は、當該權利の換地に付適當に制限を受くべき部分を指定し、換地説明書に之を記載す。



一 土地分合の登記ありたるときは、其の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數並清算金額を算出し、以て換地説明書中當該部分を變更す。

二 借地權設定の登記若は届出ありたるとき、又は所有權及借地權の移轉並借地權に付轉貸の登記若は届出ありたるときは、當該權利の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數及清算金額を算出し、

換地説明書中當該部分を變更す。

三 處分の制限に關する登記ありたるときは、當該權利の換地に付適當に制限を受くべき部分を指定し、換地説明書に之を記載す。

右昭和四年三月十八日諮問  
同日原案可決の上答申

## 第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は七萬六千八百八十八坪七合四勺にして、内宅地面積四萬七千八百七十二坪一合一勺、公共用地面積二萬八千三百七十六坪六合三勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割二分八厘、公共用地三割七分二厘なり、宅地内借地面積は三萬三千四百四十四坪七合一勺にして、之が宅地面積に對する割合は六割九分三厘なり。

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

### 一 主要街路

地區の中央を千代田橋より市電茅場町停留場を経て靈岸橋に至る電車通は幅員約十二間、鎧橋より築地方面に至る電車通は幅員十間にして何れも交通頻繁なり。

### 二 其の他の街路

地區の北部を海運橋より日本橋川に並行して靈岸橋に至る街路は幅員約七間、海運橋より楓川に沿



ひ南下して三代町八番ノ二地先地區界に至る街路は幅員約四間半、兜橋より鎧橋西詰に至る街路は幅員三間半にして株式取引所に接するを以て交通頻繁なり、其の他は街路狹隘にして行止り多く、殊に龜島町一丁目内は系統不規則にして交通不便なり。

### 三 河 川

日本橋川は地區の東北側に在り幅員二十九間半、深度四尺六寸にして舟楫の便頗る大なり、河心を地區界とす、龜島川は地區の東南側に在り幅員二十六間、深度四尺八寸にして舟楫の便あり、河心を地區界とす、楓川は地區の西部に在り幅員十八間、深度三尺にして舟運の便あり、河心を地區界とす。

## 第三章 計畫の大要

### 第一節 街路及運河計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路及運河左の如し。

#### 第一 幹線街路

第三號線は地區の中部を稍東西に、千代田橋より靈岸橋に至る幅員三十三米の街路にして、在來電車道を擴張し千代田橋詰より幹線第五號に至る迄は北側に、其の以東は南側に擴張せり、第五號線は新設茅場橋より幹線第三號を貫き中ノ橋方面に至る幅員三十三米の街路にして新設なり。

#### 第二 補助線街路

第二十七號線は地區の南部を東西に、新設の新場橋より新龜島橋に至る幅員十五米の街路にして、中

央の一部は舊道の兩側に擴張せるの外凡て新設せり。

#### 第三 區劃整理街路

區劃整理街路は鎧橋より市電茅場町停留場を経て築地方面に至る幅員十八米の電車道を其の儘存置せ



通を擴築し千代田橋詰より幹線第五號に至る迄は北側に、其の以東は南側に擴張せり、第五號線は新設茅場橋より幹線第三號を貫き中ノ橋方面に至る幅員三十三米の街路にして新設なり。

## 第二 補助線街路

第二十七號線は地區の南部を東西に、新設の新場橋より新龜島橋に至る幅員十五米の街路にして、中

央の一部は舊道の兩側に擴張せるの外凡て新設せり。

## 第三 區劃整理街路

區劃整理街路は鐵橋より市電茅場町停留場を経て築地方面に至る幅員十八米の電車通を其の儘存置せるものゝ外、幅員三米、四米、五米、六米、八米及十一米にして土地の狀況に應じ、且幹線及補助線の連絡に考慮を拂ひ、新設、擴張又は改修を爲せり、殊に龜島町一、二丁目は殆ど新設して面目を一新せり。

## 第四 運河

楓川は國施行の改修運河にして幅員を擴張して三十三米とし、河底を浚渫して深度一米八とす、其の幅員擴張の爲め切取りたる面積九百二十七坪五合七勺にして、内宅地七百坪四合三勺、公共用地二百二十七坪一合四勺なり。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	備考
幹線	計	三三・〇	三七・三	四、四七・六	
		三三・〇	四九・五	五、〇五・八	
		三三・〇	八四・七	九、四七・三	
補助線	一七	一五・〇	三六・五	一、九七・五	



區劃整理線		計		合計	
一八・二	五八・六	二、八九・三	舊道存置		
一一・〇	七六・八〇	二、五八・八一			
八・〇	一、九〇・五	四、三五・〇七	一部地區界		
六・〇	五三・〇七	九六九・高			
五・〇	五八・八四	八九〇・六			
四・〇	五三・六五	六四五・七			
三・〇	五七三・五	五〇〇・五			
	五、四四・〇七	二、六四・四			
	六、六三・四	二四、〇六・五			

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十三年十二月十三日土地區劃整理委員會に附議し、大正十四年十二月二十四日修正決議せしも、其の後數回に亘り一部換地位置變更案を提出し、其の都度決議し昭和三年十一月十五日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十五年四月十七日より大正十五年十二月二十四日迄數回に分ちて提案し、其の都度各決議したるも、其の後數回に亘りて面積變更案を提出し、其の都度決議し昭和三年十一月十五日議了せり。

換地設計に因る宅地面積四萬二百四十九坪二合八勺、公共用地面積三萬五千九百三十九坪四合六勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は、宅地五割二分八厘、公共用地四割七分二

厘なり、宅地の内借地面積は二萬七千八百六十一坪三合九勺にして、其の宅地面積に對する割合は六割九分二厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬千六百八十八坪九合七勺、公共用地が宅地となりたる面積四千二百二十六坪一合四勺、其の差引費地面積七千五百六十二坪八合三勺、減歩率一割五分



迄數回に分ちて提案し、其の都度各決議したるも、其の後數回に亘りて面積變更案を提出し、其の都度決議し昭和三年十一月十五日議了せり。

換地設計に因る宅地面積四萬二千四百九十九坪二合八勺、公共用地面積三萬五千九百三十九坪四合六勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は、宅地五割二分八厘、公共用地四割七分二

厘なり、宅地の内借地面積は二萬七千八百六十一坪三合九勺にして、其の宅地面積に對する割合は六割九分二厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬千六百八十八坪九合七勺、公共用地が宅地となりたる面積四千二百二十六坪一合四勺、其の差引潰地面積七千五百六十二坪八合三勺、減歩率一割五分八厘なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

整理後	整理前		區分總面積	宅地面積	内借地面積	公共用地面積	潰地面積	潰地面積の整理前宅地面積に對する割合	潰地面積の整理前宅地面積より潰地面積の割地を控除したる補償面積
	宅地面積	内借地面積							
二七、八六・元	四〇、二四・六	三三、一四・七	六、一八・四 <sup>坪</sup>	四七、八二・二 <sup>坪</sup>	三三、一四・七	二六、三六・三 <sup>坪</sup>	七、五二・八 <sup>坪</sup>	〇・六九三	〇・二五八 <sup>坪</sup>
〇・六九二	〇・五八	〇・六三		〇・六八	〇・四七二	〇・三七二			二、七二・六 <sup>坪</sup>
三五、九元・四六									
〇・四七二									

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。



第十五地區 甲 整理地

宅地面積内譯

整理後	整理前	區分	民有地	國有地	公有地	計
三〇、七二・九	四〇、七六・二			二四・二三	六八〇・七	四七、八二・二
				二四・五	五、五二・九	四〇、二四九・三

九四〇

整理前公共用地面積内譯

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
三、五八・三	二、七九・八	五、〇六・二	一六、八七・三	九、五五・六	一、七九・七	二九・九	—	三九・二	二八、三六・三

整理後公共用地面積内譯

幹線	補助線	區劃	小計	在來	新設	在來	新設	在來	新設	堤塘	溝渠	合計
九、四七・三	一、九七・五	三、六五・四	一四、〇九・五	一〇、八四・三	—	一、五〇・七	—	五・八六	—	—	—	三一、五九・六

宅地が公共用地となりたる面積

街	路	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計



九、四三・五 <sup>坪</sup>	一、九七・五 <sup>坪</sup>	三、六四・四 <sup>坪</sup>	二、四三・〇 <sup>坪</sup>	二、八四・三 <sup>坪</sup>	一、五七・七 <sup>坪</sup>	一、五七・七 <sup>坪</sup>	五七・八 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	三、九三・四 <sup>坪</sup>
---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	-------------------	----------------	----------------	----------------	---------------------

宅地が公共用地となりたる面積

幹線	補助線	區劃整理線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
四、八四・五 <sup>坪</sup>	一、二四三・三 <sup>坪</sup>	四、八〇・三 <sup>坪</sup>	二〇、四八・二 <sup>坪</sup>	七〇・四 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	四〇・三 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	二、六八・九 <sup>坪</sup>

公共用地が宅地となりたる面積

街	路	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
國有	公有	一 <sup>坪</sup>	一〇一・六 <sup>坪</sup>	一三・〇 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一三・六 <sup>坪</sup>	四、三六・四 <sup>坪</sup>
三、七五・六 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一八・八 <sup>坪</sup>	三、八六・四 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>	一 <sup>坪</sup>

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積」を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

換地設計上地區を整理前四十六ブロック、整理後五十六ブロックに分ち處理したるも、對照の便宜上五分區とせり、其の區域及分區別整理前後宅地潰地面積を表示すれば左の如し。



分區別區域調

分區番號	區	域	分區番號	區	域
一	兜町、坂本町の一部 楓河岸の一部		四	北島町二丁目、南茅場町の各一部 北島町一丁目	
二	南茅場町、茅場町河岸の各一部		五	坂本町、楓河岸の各一部 三代町	
三	龜島町一丁目、龜島河岸、南茅場町、龜島町二丁目の各一部				

分區別整理前後宅地潰地面積調

分區番號	整理前面積	整理後面積	潰地面積	減歩率
一	八、八九〇・四〇 <sup>坪</sup>	八、一九〇・八二 <sup>坪</sup>	六九〇・五九 <sup>坪</sup>	〇・〇七
二	九、四七四・六六	七、九六六・九六	一、四七七・七〇	〇・一五
三	一三、九六一・〇一	一〇、一三三・〇五	三、八四七・九六	〇・二七
四	九、二六五・三二	八、一七二・八八	一、〇九二・四四	〇・一一
五	六、三〇〇・八三	五、七六六・五七	四三四・二六	〇・〇七
計	四七、八三二・二二	四〇、三四九・六八	七、五三二・八三	〇・一五

斯の如く分區間の減歩率區々にして、最高は第三號分區の二割七分六厘、最低は第五號分區の七分三厘、地區平均減歩率は一割五分八厘なり、減歩率に此の如き差異を生ぜしは第三號分區即ち龜島町一、

二丁目方面に於ては幹線第五號を新設したるも、第五號分區即ち坂本町、三代町と第一號分區即ち兜町方面に於ては在來街路を利用したる結果にして殊に第一號分區に於ては殆ど移轉をなさざる「ブロック」を生ぜり、而して委員會に於ては本地區の減歩多大なるに拘はらず、將來土地補償金の交付あるを考慮